大正三年四月一日發行　大正三年三月二十八日印刷納本
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

第拾壹巻
第四號

# 要目

# 女子青年界第十一巻第四號

## 目次



# YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)


Volume XI　　April, 1914　　Number 4.

# The Dainty Girl Graduate
# Must be Photographed.

Our fast Lenses, Modern Methods and New Director, the first class specialist for Portrait by photographs, who has just come back to us from abroad. Prompt attention and courtesy to patrons have made sitting for photographs a real pleasure.

Our prices are consistent with the high quality of our Work.

MAKE AN APPOINTMENT TO-DAY

## THE YEGHI ART STUDIO

*Shimbashi, Tokyo (Corner of Dobashi)*

Tel. Shimbashi 727

新橋 江木寫眞店

電話新橋七二七



生活難や出世難の高き今日T君やK君はどん〳〵先輩を切り拔いて出世したも其筈現時大好評の子爵山岡直記閣下を會長とする英和簿記講習錄に就て僅か三ヶ月で簿記全科を卒業して立派な事業家となつたのである此講習錄は商業、會社、銀行、工業、官廳、家計、英文簿記の七科目に分れて各科共專門大家の講述て敎授法は親切丁寧何人にても直ちに上達特に實際的活用的仕組まれてあり會員には機關雜誌『簿記の友』

# 成功の祕訣はこれだ

を無代で添呈し之れに依りて商事要項、及英語會話、文案等實務上の新智識をも倂せて修得する事が出來立身出世の近道と云ので益々大高評今は第三回新學期開講で內容は各科改版してあり此際入會者には奬學資金の提供其他十大特典が設けられてある卒業生は就職紹介の辨を與ふる故に此最好機を利用して活社會に生まれよ詳細は東京市芝區櫻田太左衛門町大日本通信學院へ『はがき』をだして會則及見本を見よ無代進呈

# オルガンの指針

メーソン先生閲＝帝國音樂協會編＝最新刊

# オルガン速成

定價參拾五錢
送料金六錢
上製 背クロース小菊版
頁數九十五頁

**好評**

オルガンの大意要部の解説內部の圖解樂譜の説明鍵盤と樂譜の關係奏法練習法等丁寧親切に叙説し殊に應用歌曲の部には**流行の唱歌各國歌行進曲長唄端唄**等六十餘曲を本譜及略譜にて輯集せる好著にして初學者に必須缺くべからざる好伴侶也

東京銀座
**松本樂器合資會社發行**
振替東京一三五〇五番

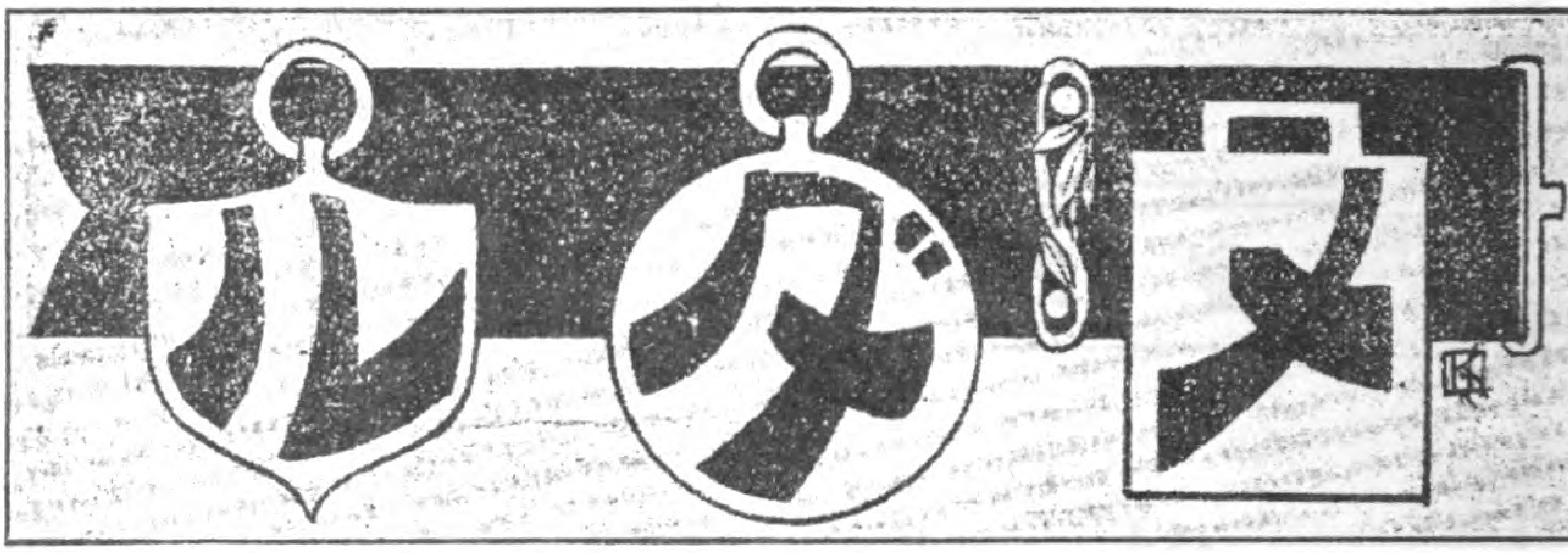


西洋樂器
# 松本樂器合資會社

獨逸オツトピアノ 金六百圓以上。 獨逸ホーマアイアピアノ 金五百九拾圓以上。
松本ワグネルピアノ 金貳百八拾五圓。 松本實用ピアノ 金貳百貳拾五圓。
松本オルガン 金拾八圓以上。 舶來、和製ヴアヰオリン 金貳圓以上。

其他西洋樂器幷に樂書多數持合有之候間何卒御用命の程奉願上候（目錄進呈送料貳錢）

東京銀座
振替東京一三五〇五
電話京橋二二九八


メダル

女子青年界　第十一巻第四號（大正三年四月一日發行）

會説

# 枯木に花

河井道子

世に嬉しい事が多いと申しましても紛失品を見出し、廢物を利用し、惡人を善化させ、死にし者を蘇生させる、此喜悦に越すものはありますまい。數旬日間冬籠りの後に、春風駘蕩の空林枯木を訪れて雪のあはひより青草の萌え出て、やがて新緑紅花を飾る、北海の春景色は到底南方人の想像し得べきものではありません。彼の花咲爺は殿樣の御褒美以上に枯木が花の咲いたのを嬉しがつた事でありませう。實に自然界を眺めても靈性不朽の現象を呈して居ります。一見枯木の如きものも春陽來復して梅となり櫻となりて其美を呈しますのは、唯雅人墨客に詩歌を弄させ暴飲暴食花の下に狂蹈せしむるが爲ではありますまい。其香其色必ずや吾等の靈性に勇氣や希望や不朽の永久を暗示して居るもので御座います。靈の眼を以て自然界を見ますと俗人の窺ひ知るべからざる天來の教を聞く事が出來ます、春は何故に、斯く一般に心嬉しく長閑になるかと云へば畢竟寂しき冬の後に來るが故て、恰も苦の後の喜、勞働の後の休息、暗夜の後の明月とも云ふべきもので御座いませう。是等を思ひますと我等の苦しみの後に喜樂

の伴ふは普通の事で苦しき死の關門の後の復活のある事を思はずには居られません。聖書に苦と榮、艱難と喜の連語が度々用ひてあります。キリストは常に御自身が苦を受けて十字架に死ぬとの御言葉の後に我甦るべしとつけて御話しになりました。吾等基督者は友人の死を見て單だ『あゝ悲しいかな』と、悼詞を以て結ぶべきではありません。彼甦りあゝ榮あるかなと云ふべきで御座いませう。若基督敎を少しも知らぬ人が信徒の葬式に列し、眼前に棺を横へつゝ牧師が『我は復生なり生命なり、我を信ずる者は死るとも生べし、凡て生て我を信ずる者は永遠も死ることなし』との聖書の句を聽く時に如何なる感に打れるでせうか。嘸かし不思議に思ふか、狂氣じみて聞えるでありませう。

過日、本會副委員長岡見けい子姉の令嬢の葬式に列しました。令孃めり子姉は二十五歳にして世を去られ御家族御友人に非常なる悲を與へられたのであります。其式の折に内村鑑三先生の說敎中、深き敎訓を伺ひました。今其大意を申上ませう。

我等愛する者を失ひし時如何なる同情の詞も如何なる贈物も我等を慰籍する事能はざるものにて唯一の滿足はかゝる場合何なりやと問はゞ即ち死せし者の甦りて吾等に歸り來らん事である、若し逝きし者の再び吾が許に歸り來る事あればこれこそ誠の滿足眞個の慰籍にて其他には一物も無からうと思ふ、吾等キリスト者はキリストの言を深く信仰する者である彼は地上に於て人類の苦を充分に味ひ滿腔の同情を以て悲憂、苦難の人々を助け、猶今日もまだ生きて吾等を同樣に慰め給ふのである、此のキリストの言に「吾が末の日に彼を甦らすべし」との約束がある然りキリストこそ我等の愛する者を甦らせ永遠の命に生かしむるものである、我等の悲は底しれぬ千仞の谷に落ち行く如き悲愁に非ずして我等の悲の下には頑々として動かざる殿なる土臺があるから涙の中にも其上に立つて猶益々將來の希望と光明とを認て進み得るものである然らば神は何故失せし者を今直に甦らせ給はずやとの問題が起るがキリストが「末の日に甦らす」と云はれしには深遠なる意味が含んで居る事を憶せねばならぬ「末の日」とは時間の問題には非ずして道德的の意味にて永劫に憂ひなく悲しみなく罪惡なき時の來りし世に於て甦らす意味である我等もし眞に愛するならば此世に於て既に戰を終へて甦りし者をなどか又苦痛の世にして罪惡の世なる悲多き此の浮世に彼等を呼び返す如き無情を希ふ事が出來るであらうか噫逝きし彼等は幸であると云ふべきものである其故此の汚れし世に非ずして末の世に於て神の支配の隅々に行屆く處に愛する者を甦らせ彼等を永劫に別るゝ事なと淸き靈界に於て存在する事を得る、是ぞ末の日に甦らすべしと仰られし意味である。

四月十二日は復活祭に當りますが、諸姉は此日を如何なる準備を以て迎へ給ふか。唯、鳥鳴き花笑ふ好時節に教會にて讃美したり、講壇を花にて飾る丈て當日を祝ふ如き淺薄なる滿足を去りまして、信仰に於て深く此日の意味を考へ、逝きし愛する者を偲ひ、また、親しき者を失ひ悲憂の中にある友に同情を寄せ、花を贈り書面を出し、カードや、意味ある面白き玩具を贈るも結構であります。又假令物質の贈物はなくとも彼等に復活の希望を充たしめんが爲に祈り等の心掛を持ちたいものと思ひます。

姉妹方の中には過去一年に於て死別、生別の悲しみをなし、或は計畫齟齬して失望の淵に沈まれ、或は思はぬ嵐に希望の花を吹き淺はれ、友人に誤解され、學業に失敗され、物質に追はれて靈性を忘れ、藝術に騙られて宗教を離れ、此世を愛して神を捨てんとせし方が、必ずある事でありませう。復活祭は此等の罪も失望も 悲 も全く葬られて、此中より神の靈に依り新しき生命が與へられ天に昇らん勢を教へられるので御座います。これは所謂枯木に花が咲くと云ふ位でなく果實がなり人々を養ふまでに進化するので御座います、然れば復活祭の前に受難週のあるは當然の順序で、キリストがゲッセマネの苦悶、十字架上の苦難を經て甦られ、甦の後に昇天せられました事を思ひますと、我々如き弱き者にあります日々の僅かの苦痛、困難等も其後には榮あり、喜びありと思ふて現在を感謝し、又死は新生命に入るの門口と思ひ恐怖を去り時々刻々平安に暮らされるのであります。

復活祭の教訓は實に數多く、個人日々の生活に、一生涯に、或は家庭に社會に何れに應用しましても喜と希望とを教へて居ります。冬あつて後に春にあひ、悲あつて 喜 あり、死あつて如何して復活がない事がありませうか。噫世の神を知らざる人は、死が一度其の門を訪る事あれば『悲しいかな』とのみにて、水泡の如く、影の如く消えて跡なしと思ふて居るのは淺間しい事であるのみならず、彼等の事業や

目的が永遠の基礎に置れず、眞の平和と、安心や喜樂を味はれないのは無理なことでは御座いません。我等基督者は、永生を信じ、靈魂の不朽、復活の樂み地上より昇天の榮に入るに足る者とならしめ給へと衷心より祈り度いもので御座います。

## 入京と歸鄉

### （本會々員諸姉へ）

我日本基督教女子青年會員及各支部會員たる諸姉の中には、今次學年の改るに際して、多年東京の學窓の下に螢雪の功を積み目出度卒業の譽を負て、各其鄉里に歸らるゝ方も多かるべく、又各地方の學校を卒へて更に高等の教育を享けんが爲に、遙々笈を負ふて入京せらるゝ方も亦少なからざるべし。

此際、卒業歸鄉さるゝ諸姉に對しての本會の希望は、諸姉が在京中其所屬青年會の爲に盡されたる熱心と勇氣を以て、其地方青年會支部のために活動されん事と、若し支部未設の地方ならば、今後永久に會友として本部との關係を繼續し、以て各地方に本會の主義精神の顯揚さるゝに努力されん事を祈つて止まず。萬一、在京當時の熱心會員も位地境遇の變動に依て冷却さるゝが如きあらんか、眞に遺憾に堪へざる次第なれば、之れ唯杞憂に過ざれども特に希望し置く所以なり。

又、入京會員諸姉に對しては、諸姉が昨日迄兩親の膝下に起居せられしに引換へて今日は全く激變の生活に入らるゝに當り、本會は能ふ限りの便宜と指導に任せんことを期せり。若し夫れ、我會員のみならず、新入京の女子學生にして、或は精神上に、或は修學上に、或は信仰上に、相當の盡力を要するものあらば、本會は敢て之を辭せざるを以て、會員たる諸姉を始め、本部又は接近支部に通告して其所屬を明にし、互に相交親協助するに便せられん事を切望す。

# 聖書研究指導者の爲に

東京芝教會牧師　星野光多

聖書を人に敎へる事に付き參考までに大體的の事を左の四項に分けて申上げて見たい。

第一、聖書を敎ゆる責任
第二、聖書を敎ゆる資格
第三、敎授の材料
第四、敎授法――如何に敎ゆべきや

## 第一、聖書を敎ゆる責任

一體聖書を敎へる事は此上なき大責任で利害の關係する處から考へると、聖書は人類の運命に關するもので救ふか亡ぶかの籠て居る事である。法律上の事に比べて云へば、啻に財産所有物權のみでなく生死に關するので、裁判官兼辯護士が聖書を敎ゆる者の位置とでも謂ふべきものである。かく人の生命に關する事なるが故に此責任者は嚴に思考せねばならぬ。消極的に考へると「汝等人の師となるべからず」の訓誡を守るべきである。彼のモーセが神の命令に依てイスラエル人の指導者となるべき命を受けし時に敢て當らずとして辭退したのは強ち卑怯からの言葉ではない其責任の重大なるを思つたからである。哥林多後書第二章十四、同第四章の一より七まで特に六節は敎ゆる者の責任が明記してあるやうに思ふ。

## 第二、聖書を敎ゆる資格

神の力と惡の恐るべきことを識り、自分が救はれし實驗ある者、即ち眞の信仰のある者これが第一で次は興味である。聖書を習ふことも敎へる事も好きてなくてはならぬ。此本を讀む事が面白くないとして、只勉强だけする人が敎へられるものでない。勿

論勉强は大切であるが、第一に好きでなくてはならぬ。又只に聖書丈を讀むのでなく、其に關係する參考となるべき書類を好んで讀むが必要である。次が骨折ること。努力出精して、好加減にして置かずに勉めて教へる、好そこ物の上手なれとの諺の通り好むと又熱心になり力を用ゐる樣になるが順序である。

### 第三、教授の材料

何を教へるか。其は定た事で、聖書を教へると云へばよい樣だが、然う無造作に一口には云はれない。「イエス曰けるは天國につきて教られたる學者は新しき物と古き物とを其庫より出す家の主の如し」（馬太十三〇五十二）とある。此言葉を理解して我等指導者に應用すると、我等は古い昔の思想の書物と今の思想の新書と其兩方を平素學んで置くべきとの暗示である。兎角我等は一方に偏し易く、新と云へば新ものばかりを漁りたがる。勿論新著書を讀まぬと時代に後れるが、新しいものと斗り云ふて居ると詰らぬものに關係する弊を免かれない。古いものにも良き物があり、書物なぞ、百年生存へたものは眞價があつて模範文學になる。歷史、傳記、信仰の栞などが聖書研究の好材料で、此等は古いものに大層よいのがある。マシユー、ヘンレーなどは二三百年經た今日でも非常に爲になる讀物である。

又新約を教へる人々は舊約を學ぶ必要があるを忘れてはならぬ。若毎日一章づゝ聖書を讀むと四年に一度讀み終る事が出來る。十二年に三度の割になる兎も角聖書をよく讀んで居ると潛在意識となつて必要な場合に適用する事が出來る。故に平日に全聖書に通ずる樣に勉めつゝ日科に心がける事を御勸めする。其日暮の勞働者の如く手から口といふ樣な態度で今日教へる處だけ、やつとの如き心細い準備にあらずして一般的の智識を貯へて毎日勉强する事が大切である。

### 第四、如何に教ゆべきや

これは會衆の智識と信仰に從はねばならぬ。夏な

ら單物、冬なら綿入、外行きと不斷着、小供と大人の衣服、新古の區別、見分をせねばならぬ。併し共通の流儀即ち心掛がある。文章は人の眼に讀ませる演說は耳にきかせる文體論があるが、是も共通のものがあると同樣に、第一に明白に他に理解らせる事が、即ち相手を見て先方にわからせる事て此には常識が入用てある。處が組には色々の人が居るとなると、或者は早く理解し、或者は遲い、其て遠足にても行く時ても足の早い者を先登にしては足の遲い者が困る、又餘り遲いものを先にしては邪魔になるから、手をひいたり負たり車に乘せたりして、一同と共に行ける樣にしてやらせると同樣に、早く理解するものに冗長と思はせず、他の者には雜と思はせぬ樣に所謂座を見て法を講く樣に常識を用ゆべきてある。次は有力に說くのて、只面白い丈てはいかぬ學ぶ者の心に強く感ぜしむる樣、判を確と捺すことてあつて、いくら洗つても殘る樣な印象を深く與へる事てある。聖書に「墨に非ず活神の靈にて記し又石碑に非らず心の肉碑に記したり」とある如く、聽たことは忘れる事が出來ない、忘れて居る樣だが何かの時に浮び出る樣に有力に聖書を敎ゆべきてある。說敎家、演說家の力あるのは爰てある。效果を收めるには只理解した丈ては心は不充分てある。

次は優美な點て、文章ても上品な優美な點が必要の通り、聽て居て心持が好くなる樣に勉める事て、言葉使にせよ、說明を出す時にせよ、材料の取扱ひにしても此を心掛て貰ひたい、小女がリボンをかける一寸した處で全體を引立る、かくは云ふものゝ說明や言葉が綺麗すぎて本文が隱れる樣な事があつては大變てあるから、上品な、優美な氣高いものを材料にして言葉の中に含ませよとの事になる。

結局の目的は、聖書を敎へる事は人を救ふ道て信仰させる事てある。抑信仰の本體は意志て、從ふ、任せると云ふのてあるから、組て講義や話を聽き實に面白い、實に然うだと悟つて、終に名ても書いて信仰の決心を示し受洗すると云ふ風になるが道筋と

思ふ。

扨て生徒に大切なことは啓發教育である、考出させる、想像力を活動させる事である、雄辯學に其力の一として沈默が數へられてあるが、間斷なく立板に水の如く雄辯を振はれると頭が痛くなつて却て有効でない。彼のナイヤガラの瀧でも急行の汽車で通る時は見えない崇嚴なことは緩かて遲いもので葬式の行列の靜に遲いのでもわかる。兎角婦人は早口であるゆゑに此點に注意をされて、沈默の雄辯を習ひ、生徒の想像力を刺激する樣に努力される樣に希望するのである。

序に、參考書として左の諸書を紹介する

(一)ライル監督の四福音書解釋
(二)ヘンレー、マシユー註解
(三)センチユリ、バイバル
(四)ケンブリヂ、バイバル
(五)ベルベク博士の家族聖(新舊約に短き註を入れしもの)

(文責在記者)

# 信仰生活のしをり(一)

松榮 譯

惰たる者はこゝろに慕へども得ることなし、勤めてはたらくものゝ心はゆたかなり。(箴言)

惰者の情慾はおのれの身を殺す、是はその手を肯て動かせざればなり。(箴言)

信仰を養ふ爲に如何なる良書を用ふるとするも、靈魂はまづ自らの爲に大に努め働かざるべからず。今こゝにいかにして之をなさんかにつき少しく語らんとす。

信仰を養ふ書の有益なる道いと多し。一には我等の心冷えて涸れ居るとき、祈を始めしむるの一助となり、二には我等自らの心の狀態をためす。我等がたゞひとりダビデにかぎらず、諸聖徒の『我不義我に追及て仰ぎ見ること能はぬまでになりぬ、その多きことわが首の髮にもまされり』といふをきく時、我等自らは不義をかくのごとく感じたることあり

や、なしどせば我等の信にあやまてる所はなきかと自ら問を發するを禁じ得ざるべし。或はかの聖ヨハネの如く主イエスの懷に倚れるが如き諸聖徒の祈禱をよみて、我等みづからの胸には、さる喜悦と平安なきを知るとき、我が信仰の足らざるを忍はざるを得ず。されど如何なる良書と雖、以てわれらの信仰には代ゆべからざるなり。

我が主イエスのヤイロの女を起たしめ玉ふや、女に食物を與へよと命じ玉へり。かく我等の靈魂にして生命を得るときは食物を要するなり。

されど、こは單に信仰を養ふ書を讀むのみにては足るべからず。我等は身を以て聖書を讀み、身を以て祈をなすことを學ばざるべからず。

今日の如くあまたの美しき『瞑想錄』の出版せらるゝ世にありては、我等は自ら祈禱し、みづから瞑想し、みづから聖書を讀むの、勞多くして難きわざをなすことをなさずして、單に他人の書物を以て、之に代へんとする大なる危險に遭遇す。我が良書の假令いかばかり善美にして、我が努力の如何ばかり貧弱なりとするも、書は以て努力に代ふべからず。『すべての勞働は益あり』我等の魂は毅然として立て努むべし。

組にたより、講演にたより、宗教書にたより、然して我等自身の靈をして、敢て聖書を讀み、瞑想をなすことをせしめざる、是れ現代の弊なり。

今茲に『信仰のしをり』といふ、後來こは用なきに至るべし、されど信仰生活の初歩に於ては、最も必要なるものなり。

我等はキリスト者の制抑を知るにあらざれば、キリスト者の自由を十分に了解すること能はず。まづ制抑を學びて後、自由をまなぶべし『なんぢら言ること行ふこと、自由の律法に由りてさばきを受けんとするものゝごとくなすべし』。

精密なる細則それ自身は恐らくはさして重要なるものにはあらざるべし。我等の心にして全く神に打まかせあらざらんか、如何に完全なる律則と雖、以

てわれらを天に擧ぐるべからず。我等の心にして神と正しき關係にあらんか、如何に拙なる律則も、以て我等を亡ぼすことなし。然れども我等が心にとゞめざるべからざる人生の大要義は、『まづ神の國を求めよ』是なり。然して或程度まで律則によるにあらざれば我等は之を爲し得ざるなり。

生涯我等は、日々のつとめに於て、まづ神を第一におき、且あがめざるべからず。然して之をなさんには、――少くともキリスト者生活の初期に於て、信仰生活の習慣の完全に形成せらるゝまでは――我等は細則に俟つところなかるべからず。

『まづ神の國を求めよ』

是れ我らのしをりなり、要義なり。日々の生活をして之に應はしめんためには、我等はまづ、『神に語り、神に聽かんため、今日のいつの時を神にさゝげ得べきか、又さゝげざる可らざるか』を念はざるべからず。

之をなすにあたりて、我等はいくたびか躓づくことあらん、されど我等は直ちに神に之を懺悔して、我等のつみを洗ひ去り玉はんことをねがひ、然して更によく、更によく、更に謙遜なる精神を以て翌日の生活をはじむべきなり。

故に『まづ神の國を求めよ』なる一大原則をおき、すべての細則をこの上にたてゝ、之を實行せざる可らず。我等の困難の半は之をなさざるより來る、例せば無益の訪問空談に終日を費して、我等の祈禱を思ふこと全くなく、すべてを機會に一任するとき、我等は期したる樂を得る能はず、神をはなれしの感を生ず。

我等夜毎に僅々五分を靜思の爲に分たば如何。明日我は外出せざる可らず、出宅前五分の餘裕はつかざるべきか、容易なり、さらば十分は？これもなし得らるべし、よしさらば其時、静かに人をはなれて神とともにあらんは如何。

我等の宗教には常識と慮とを缺くべからず、夜毎恭敬の念にみちて過す五分間は、多くの不安と苦

痛とを我等よりとり除くべきなり。忙中閑少なき人と雖、この數分は得らるべし。

信仰生活に就ての律則それ自身は有益なりと雖、我等は之に拘束され終る可らず。神の攝理が我等の日用の律則と抵觸する場合には如何なる時と雖、よろこびて、理の爲に法を拋たざる可らず。かくして事情の異なりゆくにつれ、經驗をつむに從ひて、時々神の扶けのもとに、方法はかはるべし。大齊は自省の爲に教會が定めたる時なればかゝる變化には最も適當の時なり。我等が進歩するにつれ、我等がはじめし舊るき方法の一部は不用となり、一部は新要求に適はんが爲改められ、一部は同化と同情とによりて、我等全く之を體得し得て、遂には何れを他よりまなび、いづれを聖書より直接に敎へられしかを分たざるに至るべし。

今聊か日々の信仰生活に對する方法をのべんに、我等はいづれも多少祈の爲に分つべき時を有せざるはなし。如何に之を分ち、如何に之を用ふべきか。我等は祈りたく、聖書が讀みたく、又瞑想をも欲す。此等いづれも至要にして、而も各異なれり。

朝起きなばまづ直ちに跪きて、我等の心も日も神にさゝげて、『神は活き給ふ、神に事へまつらんために、神は又我らに一日を加へ給へり』『父と子と聖靈に榮光あれ』の語を以て、其日神が我等に求め給ふすべてをなし、耐え、まなばんが爲にわれらみづからを棄つべきなり。

なし能はゞ『夕に晨に晝にわれ祈らん』といへるがごとく、一日に三度時を分つが可なるべし。我等の時は神之をしり給ふ、神はみこゝろのまゝに、各人を各樣にわかち給へり。神は此子に數時間をあたへ、彼の子に數分時を與へ給ふ。『もし人ねがふこゝろざしあらば、そのなきところによらず、そのあるところによりてうけたまふべし』。

朝二十分乃至三十分あらば祈と瞑想とをなすべく一時間あらば聖書を讀むべし。晝は三十分ありとするもよし、又五分なりとも之を祈禱に用ふべし。夜

は時間に從ひ、聖書を讀み、自省して祈り、又は信仰を養ふ書籍を見るべきなり。

# 義勇傳道者大會感想

在米 國井綾子

私は札幌の北星女學校より參つて居る者で御座いまして、女子青年會と其の御働に就ては特に興味を持て居ります。且つ「女子青年界」は何時も到着を待遠しく思ふて嬉しく拜見して居るもので御座います。もとより「女子青年界」に書くやうな筆は持たないのでありますから、投書又は通信などするといふやうな事は更らに出來ないので御座いますけれども、先日義勇傳道者大會に出席いたしまして、非常に大なる惠を與へられましたので、其大會の精神を郷國の姉妹方に僅に一言丈けでも、御傳へせずには居られない心か致しまして、拙い筆を執つて御通信申上ることに致しました。

御承知の如く、四年間に一度づゝ開會される北米合衆國と加奈太州との學生義勇傳道者大會は、去る十二月三十一日（大正二年）より正月五日（大正三年）までカンザス市に於て開會いたされたのであります。抑も此カンザス市と申すは地理上から申ますと、北亞米利加の殆と中心ともいふべき所に位して居まして、四方から集る代表者の爲には大變に好位置て御座います。代表者は各州よりの特別列車にて運ばれ、私は南ダコタ州からの代表者と共に一客車を専領して參りました。六百哩の長途旅行も友達が澤山出來まして、別に長途の旅行と思はずに三十一日の朝早くカンザスへ着しますと、停車場には接待係の方々が鳥の飛ぶ様に彼方此方に奔走して各代表者を案内して下さるやら、プログラムを渡して下さるやら、誠に行屆いた事で御座いました。今度は電車を下りると、百五十人程の制服制帽の十三四五歳の男兒（兒童練習團）が、元氣に重いスートケースを運んで呉れるやら、町の案内をしてくれるやら接待の萬事に何から何まで行屆いた設備に感じながら會場に參りました。

開會式は卅一日午後二時半よりにて、八百近くの大學からの代表者四千人。其學生は各州により着席致し、大學教授、大會講演者、外國傳道者二百五十

人ばかりは講壇上に着席され。猶は三千のカンザス市民は三階のバルカネーに席を與へられました。
翌朝の會は九時十五分より始まりて十二時に終り講演者は米國又英國の最も有名な宗敎大家四五名づゝで御座いました。午後の集會は市内の各敎會にて四五部に分れて部會の樣なものを開きました。夕の集會は朝と同じ樣で大會堂で開かれ、八時より十時まで續きました。講演者の中で最も有名で有力な方は、大會長モット博士を初め米國プレスビテリアン派の大將と仰がるゝスピーヤー博士、倫敦から御出掛になりましたホートン博士、合衆國外務卿のブライアン氏などで御座いました。假し右の如き大家の有力なる說敎を聽く事が出來ずとも四千人の青年が、眞面目な一生涯を主に捧げて外國傳道者を直接間接、應援せんとする者が聲を合せて『我は誓へり我エスよ君に事へん終りまで』と唱ふ讚美を聞くばかりでも、或は又七千人の全會衆が心から唱ふる主の祈をきくだけでも、私の胸は一ぱいになりましたあゝ、玆にこそ北アメリカの萬國に秀でたる精神が表はれて、物質的に、科學界に、實利的に、世界に翼を張つて居る北アメリカは、確かに精神的にも世界一だと叫ばずには居られませんでした。
大會の中は、元氣に滿ちた火の樣に燃えて居つた神の靈を明らかに感じ得。神の深き御聖旨や神のウイジョン。異敎國に對して信者の責任など深く〱悟る事が出來ました。此義勇團の格言は『此時代に於ける世界の福音宣傳』で御座いました。大會代表者を送つた學校の內で百四十人のシカゴ大學が第一位を占めました。支那の男女學生も百六十名ばかり出席して、特別席を與へられ、中々優勢で御座いました。日本人は總體三十三四名にて男子三十名ばかり、女子は僅か三名で御座いました。米國中部日本人學生青年會幹事の加藤勝治先生初め、日本の方の內には遠く加州の方から、シャトルや又東部は紐育の方からも御出でになつた方が御座いました。女子は佐藤りう子樣がプリンマー大學からと、ミルオー

キーから加藤高子様と、南ダコタからの私とて御座いました。その外東京女子青年會のミス、マシウや盛岡のミス、タビングとは、二三度も食事を共にする機會を得まして嬉しう御座いました。その外日本への傳道者は澤山御出席になりまして、青山女學院のミス、アーリングや大阪のミス、アレキサンダーや、神戸のタムソン御夫婦等にも、御目にかゝりました。私共日本人團體は、多忙中僅の時間を割きて日本人の集會を二三度催し、留學生問題や宗教問題につき論じ、又祈り、故國の爲めにとて特別に祈禱會を開き心から祈りました。

大會の印象は、到底一々限りのある紙上には書き盡されませんが、唯た、終に一言申し度い事は、あの大會が靈と愛と又犧牲、献身の精神に充ちた會合であつた事と、神が私共各自の心に明かに神の使命を教へ給ふた事と、人間は恐れるものでなく神によつて弱い者ても強くなる事が出來る事や、私共神を知つて居るものは常に大なる御手によりてつながつて居る事を自覺し得た事を感謝して居ります。

# 新生活

在米　加藤高子

十月七日、今日は米國に來ての初めての誕生日です。朝食堂に參りましたら私の椅子に大きな包が二つ載つて居りました。ナプキンリングには紫色の花がさしてあり、又手桶形の花瓶には三輪の朝貌が挿してあつて、皆さんて御めてたうと祝つて下さいました。私はびつくりして居りましたが包をお開けなさいと云はれて、やつと、いつもの私に返り開けて見ました。マップと一對のくびかけてした。何と申しませうか、本當によい色なので私には誠に勿體ない位な立派な品です。何と御禮を申してよいかわかりませんので只たお辭儀を致しました、事意外の爲に私の顔は嬉笑ひてはちきれさうてした。今日青年會に參りましたら幹事の方々が祝ひの言葉を申て下

さいまして、何てすか嬉しいのか一向夢中て居りました。いつもながら皆様の御親切を心から本當にありがたく存じました。

夜分には、私の爲めにデナーには特別の御馳走て二人の御客を御招き下さいました。それは幹事見習に來られた二人てした。私は一向存じませんて居りましたので。猶更嬉しう御座いました。先づデーブルには私の好きな小さい菊がありまして、二本の蠟燭たてのかさは薄い蜜柑色の菊の花の形、御馳走はライスチキン、私の好きな青豆、アイスクリーム、ボイスデーケーク、これは眞白な菓子の上に蠟燭か六本立てゝあつて、ナストリションの花が美しく取り巻いて居り、外にカンデイもありました。私に菓子を切れと仰られましたが、出來ませんから止めまして、ミス、レノクスに切つて戴きました。蠟燭は二度に消しました。もし一度なら此一ヶ年間に結婚するといふのてすから、ミス、メリルは私の父に何と云はうか心配だがなどゝ戲談がありました。日本の丹波酸醬の木が裏の庭にありましたのを切り取つて、パラーに下げて下さいました。赤いのてす。何から何まて御心盡して私は御禮の申上樣が御座いませんてした。又總幹事と若い新らしい幹事と二人の見習生都合四人御一緒て匕を下さいました。初めての匕。嬉しくて堪りません。早く御目に懸けたい事！家の女中エディスと云ふのが、それはそれは親切な人て、私によくして呉れます。私は直接に話も何も致しませんが。私の嫌いな喰べられないものをよく覺えて、色々と心配してくれますのです。其の女中が私の机の上にボイスディカードを置いて居りましたの。何と可愛らしい心根てせう。これも忘られない大切な事の一つです。嬉しければ、なほ〳〵、日本が戀しくつて、何事につけても忘れずに聯想して居ます。

私は何處に參りましても多く受けて、自分から與へた事は少う御座いますから本當につらう御座います。勿論、物質ては尙更ら出來ません。何とか他の

方の爲めになり、少しても御助が出來る樣にと祈つて致して居ります。少しても用をさせて戴きますと嬉しう御座います。働く方が本當に愉快て御座います。ミセス、ヘリカから御親切な手紙を下さいました。シャトルの家を米國の私の家と思へと申されました。親切なよい方に圍まれてますから、猶更責任を持ち祈つて致します。今日はこれから田舍に一泊がけて、ミス、メリルの御友達の處に參ります。三人て、美しい自然に接し得られるかと思ふと嬉しう御座います。

十月十日、爰はミルオキーから卅哩距つた田舍の極く淋しい處で、勿論景色はよくて堪りません。居間て、ミス、レノクスは讀書、ミス、メリルは新聞を讀み、私は手紙書き、ランプを取込み樫樹の葉に落ちて來る雨の音をきゝ乍ら、小さい湖を見晴し、小山が茂り、向の一方には牧場があります。今朝は自動車て米國の田舍を歩きました。牧場が廣い〳〵ので本當に驚きました。牛の群や羊の群も暖い秋の日に照らされて遊んて居りました、牛と鷄と仲よく一緒に遊ぶ處など全く麗はしい繪てした。澤山赤い〳〵林檎がなつた木があり、葉が紅葉して本當に愉快てした。はてしもなく廣いので、とても日本では見られない景色。此の家は、ミス、メリルの御友達て老人と娘さんと息子さんが居られます。老夫人は本當に可愛らしい氣のよい方です。色々の鳥の名や鳥の巣の御話や鼠の巣の物語りなど伺ひました。ミス、レノクスが日曜學校の幼稚科の子供に鳥の巣を見せたいといはれましたら、可愛らしい巣を箱に入れて下さいましたのよ。御娘さんは室外に御寢みにます。私は今日午後廣椽側に寢て居りました時に、もし家を建てる樣なら室外に寢られる樣な家をと、獨りて設計などを考へて居りました。夢が實現される樣にと實に馬鹿な事を思ふてました。昨夕參りましたが霖の中て實に心地よく御座いました。今晩もう一つ寢て明日は賑はしいミルオキーに歸ります。何と田舍はよいてせう、嬉んて居ります。嬉しさの

あまり一筆書きました。

十月十三日、午後四時、家で書いて居ります。大變よい天氣で何ですか嬉しくて、今朝は例の通り湖岸の公園をぬけて歩いて青年會に參りました。實に强い風でしたが晴々として居りました。ミス、マクエロリと一緒に青年會の雜誌十月號に記載する廣告を探がしに參りました。初めは荒物屋ではねられ、パン屋で又斷はられ、今度は別の店に行きましたら主人が病氣で面會が出來ず、今度は又川を越えて遠くまで參りました。青物店でした。其店の重役は何とか申す別の處に住むで居るからとて、親切に電話で尋ねてくれましたが、外出で留守。皆駄目でした。それから、次は洋服師の處に參りました。此所では成功。金を渡してくれました上に可愛らしいボタンを作る事、薄い美しい布を縮める事など色々親切に見せてくれて、大變よくして呉れました。私の事を新聞を讀んで知つて居るが、晝中働くので、夜外出が出來ないから、私の日本服が見られないていと殘念と申して居りました。狹い二間の處でしたが便宜に機關仕掛ですので目をくる／＼させて見てました。東京で青年會の幹事達が廣告を取りに行かれた事實があり／＼と頭に浮びました。何處でも同じ苦勞があるものと思ひました。

十月の雜誌に何か挨拶を書く樣にと申されましたので、急に會で二三行書きました一向わかりませんが書きました。それで、ミルオキーの某新聞紙上に載つた私の寫眞をも記載するとの事です。いづれ御送り申しますが、何ですか自分の足りないのがつらくてなりません。今日は活版所にも參りましたし新聞社にも參りましたので色々覺えました。初め目の廻る樣に感じましたミルオキー市も左程でなくなりました。銀行や或店などは、ミス、マクエロリより私の方がよく知つてました。步き廻りくたびれましたので、家に歸つて直ぐ靴をぬぎまして足袋になりました。先日初めて手袋を買ひました。買物は未だ一人で自由に出來ませんが、青年會から家に歸るま

ての電車は一人で自由に乗れる様になりましたから御喜び下さいまし。

昨日の日曜日、青年會にて禮拜にチベットに宣教師をして七ケ年居つたと云ふ方のお話がありましたチベットの着物を着けて、御夫婦でお茶に留まつて一緒のテーブルで御話を致しました。日本語も少々御存知でした。此の米國でチベットの御話を伺ふので變な氣が致しました。然し神の國を建設せんこと誠心から働かるゝ人達を見て實際愉快に存じました實際的なよい話をせられ、私共もチベットの事を少しは學びました。吉田梅子さんが天國に召されました報に接しまして、唯々驚いて居ります。櫻井さんの御家で一緒に會食し新橋迄來て下さいました、あの吉田さんが目に見えます、立派な御最後でしたと云ふ事をツトネさんから伺ひました。新生涯に入られて僅か二年でしたが、よき種子を確に御蒔きになりました。青年會でも餘程吉田さんに負ふ所が御座います。看護婦の方々も立派な生活に入られる樣と吉田さんと看護婦とは私はいつでも一緒に思ひます此の世では御目に懸られませんが、何ですか如何にしても魂の不滅を感じます樂しき希望と存じます。

十月十五日午後九時。ミス、メリルもミス、レノクスも御裁縫です。私は手紙書き、私の足許にピーケーといふ犬が寢て居ります。今日午前に私の帽子買に參りました。家中での大きな鏡の前に座らせられました時に、青黄色な顔に、例の茶色の帽子の自分の姿を見て、全く支那人そつくりだと思ひましたろくに自分の顔も見ないで居る中に直ぐ黑い帽子を戴せられました『此が御似合ですよ、此方が宜しいマー此の御似合なこと』など手つき顏つきをして店番の女中が申して居るのを、夢の樣に聞いてました脇に二人の方が立つて居られます。私には一向わかりませんから、皆樣に御委せして居るのは、まるで人形の樣です。自分で撰擇が出來ませんから。私の米國での帽子買の幕は之れで終りました。横濱で初めてミス、カウフマンと買ひました時よりは帽子に

就いての味がわかつて來ましたやうです。ミス、レノクスが家で飾りをして下さいました。先日戴きましたマツフと對の色の毛で後の方に二本對立つてあとは縁をぐるつと卷いて中々立派なのが出來ました。私が手紙書をして居る中に御作り上げ下さいましたので、今被つて居りますのよ。ミス、メリルは今別の御室で御手紙書きを初められましたから、其の所まで御目にかけに行つて來て、其のまゝの樣子で居ります。まあ私は日本の縮の着物を着て帽子を被つてますの、大變心持がよろしう御座いますの。今日帽子買の後に靴屋へゴム靴とゲーターを買ひに連れて行つて下さいました。靴が七十五錢でゲーターが一弗で暖い心地のよいのを求めました。もう何時冬が來ましても用意は整ふて居ります。

ミス、レノクスは御家で主婦役で私の萬端の世話をよく〳〵して下さいます。ミス、メリルは御主人役です。本當に皆さんが各異つた特長を有つて睦まじくして居られるのを見て美しいと思ふて居ります

## ○六號座談

六號老人

▲大隈さんは百二十五歳まで死なぬと言つたといふンで、大分其意氣に呑まれて居る若年寄があるやうだが、老人なども百二十五が二百までも生き延びて見たい。ウム、さうさ、此の年になつても死にたくはないよ。ナニ未だ〳〵若い氣は失せないねー。

▲此間の孫娘が外國の御友達と英語でペチャ〳〵やつて居ると、老人にや何だか薩張り分らないだ。此れぢや、一つ老人も奮發して英語の稽古でも始めて、孫娘を負かしてやらうかとも考へたのだよ。

▲どうも、一體に、今の若いものは早熟早老で困る。○○の倅がやつて來て、今年徵兵檢査だといつて居たが、「海軍の牧師で國家の前途が心痛に堪へない」なンてやつて居た。其心痛にや老人も恐入つて仕舞つたよ。そりや、心痛は心痛に相違ないが、十九や二十歳で國家の前途が心痛に堪へなくちや、三十歳ともならぬ中に氣が狂つて華嚴へ出かけやしないかと、其方が老人は心痛ぢやつた。

▲青年ば修養時代だよ。計畫を行ふ時代は其先に來るよ。學窓生活の時代から家の身代の繰り廻しが氣に懸るやうぢや、マア大した人物にもなれまいね。修養時代には何もかも忘れてウンと修養するだウンと資投れをして置かねば、ウンと活動は出來ないよ。目先の事に、くよ〳〵せないで、マア、ウンと腕を肥して千年も永生して働く覺悟をするが、若いものゝ一番大事な點だよ。

▲上野の博覽會も始まつたさうだから、一度同道しやうか。どうも天氣が定まらなくちや困るね。ヤア、もう、あの雨の日に行つて來た、ソリヤ、早いこつたねー。雨の博覽會亦一興ありか。

# クオバディス感想（二）

（十）　吉田敏

私は邦語に譯された「何處に往く」を讀みました時には勿論原文の讀めない私には何とも批評の加へようもありませんでしたが何となく譯語など滿足が出來ないやうに感じた點が御座いました。今度活動寫眞で見ました方があの譯本を見たよりも適切に私の頭の中に感得する所が多かつたやうに思はれます。

リジアの高潔なる信仰は言ふ迄もありませんが彼女をして爰に至らしめた當時のロマ教會の牧者たるペテロの人格が實に神の愛に燃へて彼の空前絶後ともいふべき迫害の中に神の氣息を信徒の胸に吹き込んで居た事を想念せずには止まれませんでした此のやうな牧者よりして始めてリジアあるを得るので御座います嗚呼大正の時代のペテロは何處に？

（十一）　花井文

私は田舎もので有益な活動寫眞など見た事はありませんでしたが丁度上京中で友達に誘はれて「クオバヂス」を見て參りました本當にあんな活動寫眞は生れてから始て御座いますリジアの精神は實に私共の手本であると思ひます又基督信徒の耐忍と愛心は感心な事でありますと深く感じました。

（十二）　富井のぶ

ペテロがロマを立退かんとして市外まで出かけてキリストに逢つた時の神々しい全景が今も眼前に彷彿として殘つて居ります。

（十三）　本多春實

ペテロのローマを去らんとする途中キリスト現はれ給ひ再び行きて十字架にかけられんと云はれましたがその通私共の罪を犯す度にキリストは十字架につけられ給ふのではないかと私共の罪深きを恐ろしく思ひました。

（十四）　齋藤秀

正義の爲攻められるのは幸福である、精神上の愛と物質上の愛の相違。

（十五）　關口縫子

實に信仰は偉大なるものなる事、殊に人間は或大なるものに向つて已れの身を捨てる時には神が既に自己の身に宿り給ふので出來難いものはなく惡が如何に勢猛くとも正義の爲には惡は滅じるものと感じました。

（十六）　水澤キヨ

自分に眞の信仰心の出た時は危險の中に進んで入る様になるものである事をベニチュース火中に進み入るを見て感じました。

（十七）　伊東みる

死ぬまで敵を愛すること、いくら罪のあるものでも自分が罪を悔ゆる時は神は是を赦し給ふこと。

（十八）　鈴木操子

リジアが弱き女性であるにも拘らず信ずるものゝある爲に強いこと。如何に迫害を受けても自分達の命をとられる時迄もその人々をうらまいのは云ふまでもなく信者の赦す心と行その様な事は神様を知る者でなければとても出來ぬ事と思つた。

（十九）　福島喜久

リジアが神の禁を犯さんとして自分に勝ちたる心がえらいと思ひます、そしてキリスト教徒が死に臨み人を恨まず從容として而も敵の罪を赦す心に感じました。

（二十）　中西司娜子

ニロ及び其臣の利己主義なる汚き行に反しキリスト教徒の心の中に神を宿して振舞ふ美しき行に最も感じました。

（廿一）　太田泰

神の國の愛は聖にして力が大きいこと。神の國に入つた人と汚れた國の人との間には距がある、一身を犧牲にして神に仕へたポーロが神の子キリストに仕へ死を決してローマに歸る時の様子とネロがローマから逃げて行く時の對照が實に善かつたと思ひます。

小説　# ひとりぼつち後篇

河井道子譯

## 第二章（つゞき）

兩三日經てラセル氏の訪問を受けた母親と娘二人は大悅びて昔を繰返し小川農場の話が出ましたので姉妹二人は農場の夫婦を訪問せんと出かけました。

訪問受けた內儀の歡迎は非常もので、

「御孃樣方の噂をサ、良人と私とで度々したゞんだがまあ甚く成人して大した娘御さんにならした事、昔のあの跳ねて廻らした子供衆とは思へませんわサマレー樣は私に識別る、お前さんの顏は昔と同じ事の可愛らしい笑顏だが、ベテー樣は大變御變化したもの、それでもお前さんの小さい黑い縮れた頭髮や惡戲なさる樣子、あの犬つ子にサ、現を拔して御座つた姿、忘られやしねえんで御座んす。ベテー樣あの石碑は未だあのまゝ果樹園に御座んすの、農場の立派な飾で御座す、大勢檀那衆が來られて石像の犬にしては、宛然生きてる樣だと賞讃られます」と饒舌りながら果樹園に案內しました、ベテーは子供時代に於て大悲劇を聯想せしむる其地に佇立て錆た鐵柵と、小さな記念碑とを悄然として眺めて居りますと、側から揶揄の色を表はしてマレーは、

「ベテー、どうです當時は卿は悲哀に氣ぬけして有耶無耶なつて仕舞つたのですが、今日になつて見ると大變小さな悲哀でしたね」

「そうでせう比較的に、けれどあの悲しみは一生忘れませんよ」と返事したベテーは碑の前を去り得ず昔を追懷して居ります。

「何て自分はおかしな子供でしたらう、あの悲しみの時に是が即ち平生懇願つた困難の一節だと言はれた時は眞面目に豪氣がしました當時は天が近く思はれ宛然一足飛びに天國へ移して戴く信仰があると自信して居たが、現今其半分も天は近く思はれず、神も遠い氣がしだしました、今は何か本當に欲しいのか自分でも解らず、何となく不滿足で自分の生涯が

虚空で無意味の様である。姉さんは全く滿足して結婚の話でなくば、想像的人物に氣が取られて居るし母とマレーとは同情、同感で二人の外誰れも入用なしといふ樣子である、今世界には誰れにても正確に適合る隅があるのだらうが、自分にはどうにも其隅が見當らない樣だ』と一人言づゝ花壇の周を農場の主婦と共に歩いて居りましたマレーの方へ驅けて行きました二人の歸つた後で、

『お二人ともが別嬪さんだよ、ジャン！　けどベテーさんは昔日の通り輕捷で、口は一寸ばかし諧謔くて、目は快戯でもしようとピカ〳〵光つて居るんたよ、どうしてもマレーさんの方が勝利子だと私は思ふんだ、あの音聲といひ微笑といつたら御姫樣の樣に可んだもの』とは農場の家内が良人に談した意見でした。

## 第三章　奇遇

『マレー、マレー、何處にいらしつて？』

『此處に、書齋に居ますよ何か用事？　まあベテー如何ていふ騒動です、御母樣が休息ていらつしやるから吃驚なさいますよ』

『姉さん、此那よいお天氣に陰氣臭い室に何して居るのです、私は大變な冒險をしたので誰れかに話さなくては居られないのですよ』かく云ひて低い窓腰から身輕に飛び込みました、帽子は後頭部に跑れ、例の縮れた毛が額に亂れかゝり、顏は紅さして如何にも激動した樣子で太息つきつゝ安樂椅子に靠れかゝりました。ストワード夫人が今休息の時間で、マレーは此自分の自由時間に彼女の想像に充滿たる腦裡から奇想、妙案を産出して自作の小說を賑はして居る最中でしたからベテーの突然の妨を嬉しからず思ひ怪訝な顏貌で、

『一體誰れに遭遇たのですか、奇妙な花でも摘んだ位でせう』

『それは大變でしたよ、ネー聽いて頂戴、是非聽いて頂戴、貴女の小說の草稿など投火しまつても聽か

なくつちやならないんです」妹が自分の大事な書物を今にも引き綯りそうな様子を見てマレーは大急ぎて片付てしまひ、

「聴きますよ、お言ひなさい」と詮方無さそうに温従しく椅子に靠れて尋ねました、ペテーは眞面目と戯談の混つた光澤を目に湛えつゝ、

「あのね今日は目的なしに吟行て居ましたら小丘があつたので其處に上り畠地を一廻りしてから野山のそれはそれは景色を一目に見える日照りのよい野原に出て來たのです、處がね老樹の間から嵯峨た古風の煉瓦造りの立派な邸宅が向ふに瞥見と見えて、それから銀を延べた様な川が蒼然山の麓を取巻いてね……。

「景色などどうだつて良いぢやないの、早く冒險のをお話しなさい」と姉は切込む。

「今それになる處です、あなた折角の形容が中絶てしまひました、それから私は熟視るつもりで境堺になつて居た低い垣に一寸昇りましたさね、「處が陰になつて居る堤防の様な場所に俯伏に倒れて居た人がありました」マレーは吃驚の目を開き、

「死人ぢやまさかなかつたでせう、酔倒れてしたか」

「ちつとも動かないんでせう暫時眠と見て居ましたが怪我した人か自殺か殺された人かと思ふと急に恐ろしくなつたんですよ、放ても置けないから側に駈つて行つて其人の肩にそうと手を掛け「お怪我でもなさいましたんですか」と問ふたんですよ」ペテーは一寸話を止め心配の色が面に現はれました。

「それから?」

「其人は俄然飛び上りましたの、餘り意外で私は吃驚て飛び上りますと、まあ、ちつとも怪我などして居なかつたのです」

マレーは吹出しました。

「二人とも跳上りなどして愚人みた様てしたろう、其様子が見たかつた事。

「少しも笑事ぢやありませんよ、其人の面貌には大變な苦悩が瞭然と現はれて居ましたので私は濟まぬ

事をしたと羞かしくなつたんてす、彼樣苦しそうな顔を私は未だ見た事がありません、何たが心中に大激戰でもした樣に見えました、其面貌つたら眉を顰め額に青筋を立て目には失望がよく現て居ました」
笑はマレーの顔から消え熱心に聽いて居ります。
「それから先方は何と云ひました？」
「私の方角を瞥見と見て大急ぎて帽子を取つて挨拶して「有難う御座います、別に何も致しませぬ」の聲を殘してぐるつと脊を向け傲然と歩いて行きました、マレー私が彼樣な時に人の瞑想の邪魔をしたのが面目無かつたのてすが然し大變同情しましたの、
「恁麼風采の人てした？」
「脊の高い好男子、甚く若い方ぢやないんてす、鼠色の服に鳶色の脛衣、面貌は一寸しか見ませんが目は黑味勝ちだと思ひます、あなただつて私の塲合てあつたら一寸狼狽てせう」
「私なら其樣不躾な事はしません、寢て居る知りもしない人の側へ行つて觸つて見る等はしません。」
「雖然寢ては居なかつたんてすよ、私は怪我をしたのかと思つたのてす見過しには出來ないてせう、したらそれこそ不人情てせう」

## 旅中の所感

宮城文子

旅は道連れの諺にそむいて、たゞひとり、しかも人里はなれた山家住居、花に月に雨にと溪川のほとり、白百合咲く山路、月見草打ち震ふ野邊にと畵材を探りました、その間永かりし旅を今思ひ出ますと誠數多い感謝と、造主の偉大なる力を讃美せずにはをられませんでした。

取わけ切に私の心にきざまれました喜びは、一人旅の心寂しい山間にも、切に／＼祈ります其時はたへず主なる神のこの小さい私の中に現實となつてあらはれ働き給ふといふ確信を、より以上實驗いたしましたのでございます。そして家や友に遠くはなれてをります身は、如何に「女子青年界」のなつかしくまち遠くありましたでせう、毎月のはじめ都の宅から廻送いたして參りますのを、手に取りました時非常な力を得た心持ちがいたしたのでございます。

落葉松の林をぬけて大きな溪川の岩に座し、前に日本アルプスの遠山を仰ぎつゝ、靜かに讀み返します時、私にはそれが師となり友となり慰藉となりましたのでございます。まだ青年會の方々に多く親しく御はなしいたしました事はございませんでも、すぐ私の傍に御いで下さつて、靈性の養成をお敎へ下さるやうに思はれます、そ

して皆様方のために、會のために學を立てゝ祈りました。
實に神を知らない方々、ことに未開の地に道徳も修養も考へない生活をいたしてをられる同地方の一部の人々を誠に御氣の毒に感じましたのでございます。ましていたづらに舊習を墨守いたしてをります若い女子に、もし早くこの青年會の働きや趣旨を紹介致しまして、追々と健全なる思想高尚なる精神の涵養をすゝめまして、眞の神を受け入れる事が出來ましたなら、如何に幸ひて御座いませう又同地方の盛んなる生糸場を二三參觀いたしまして、わびしい境遇のために、働く可憐な工女を見まして、その平常の生活、行動を聞きました時、思はず同情の涙を惜しみませんでした。共に早く彼等女子の上にも暗い中から明るみに導く事が出來ましたらと、尚更ら青年會の事業の尊さと偉大の責任とを感じますと共に、私共も胸中に秘める無量の感慨と、生ける神の實在とによりまして、永遠の眞理を辿りつゝ神を知らない方々にこの嬉さを御紹介いたし、これを配けます事は、そも私等の惠みに對する正當の責任であると感じたのでございます。それで私は今後出來る限り祈りと共にこの精神を以て多少なりとも盡したいと決心したので御座います。



## 聖書研究

# 馬可傳研究

マクドナルド

### 使徒ペテロ（二）

其後基督が祭司長始め有力者の反抗を受け、漸次敵の勢力が強くなつて、其運命の日に非なるを見る様になり、基督自身にも暗澹たる前途に對して決心する所があつて、自分の死後の準備を爲さなければならない場合に立至つたので御座います。其時に基督は其弟子達を連れて、遠く都を離れて田舍へ御出になりまして、種々弟子達の養成に骨折られたやうに思はれるので御座います。其折に基督は聖書の記事中で最も大切な質問を試みられた事が、聖書の中に殘つて居りますが、其は八章の廿七節から三十節までにある事柄で御座いまして、即ち其時に基督は

弟子達に向つて『爾曹は我を曰て誰とする乎』と弟子達の所信を御問ひになりましたので御座います。

當時ユダヤ國人の中でも、學者祭司長教法師などは甚しく基督を憎みまして之を信じませんばかりでなく、却て基督を亡きものにしたいと計畫したので御座いました。のみならず、基督の教の餘りに精神的なるに其國民も基督の深意を了得する事が出來ないて、大分失望の傾向が現はれて居りましたから、基督は能く其情勢を洞察して神の救の大道を擴めることは如何にすべきかに想到される時に、過去三年間起居を共にして居た弟子達に教の眞諦を悟らしめて、大切な使命を果たさせる外に仕方がないと御認めになりましたので御座います。其處で『爾曹は我を曰て誰とする乎』と御尋ねになりましたので御座いまして、この信念の表白こそ弟子達の將來と基督よりの使命との連結する連鎖となる事であつたので御座います。而して此の問に對して卒先して答へたものは即ちペテロで御座いました。其答は『爾は基督なり』（廿九節）でありました。勿論、斯く答へました時に他の弟子は言ふ迄もなく、自ら口に此言を吐いたペテロでも、其眞意味は十分に分つて居たとは思はれません。けれども、日々基督に親炙して其御生活を見、潔い御心や氣高い御品性は到底も普通の人に得らるゝものでなく、必ず神より遣はされた方であつて、其榮を現し給ふ時があると確信して、斯く明答いたしましたのであると思はれるので御座います。

此弟子の答に就ては基督は兎に角に御滿足であつたと思ひます。しかし、基督は既に自己の運命の窮極を御知りになつて居ましたから、弟子達に向つて自分の苦難を受くる事や死の事に就ても御示しになりましたので御座います。ペテロは全く斯る忌はしき事實が基督の前途に待つて居るとは露程も考へませんてしたから、前からの話續によつて、少しく調子に乗つた氣味て、基督には左樣な事はない、又ある筈てないと諫めやうと致しましたが、基督はペテ

ロを顧みて非常な嚴格な言葉を以て却てペテロを警めらめられたので御座います。(八章卅一—卅三)

ペテロは三年程の間基督に師事して基督が神から遣はされた神の代表者であるに相違ないと信じましたけども、基督が如何にして其國を建設せられるゝであらうかといふ事を考へますと、物質的の事の外に新しい考は起らないのでありまして、即ち今に基督が羅馬帝國に打ち勝つて其羈絆を脱して幸福なる新國家の基礎を据へて之を支配し給ふに至るといふ事の外に想像も及ばなかつたので御座います。故に基督が其難を受けて敵の手に殺されるなどいふことは、ペテロに取つては意外の意外でありまして、そんな事は有るべき筈ではなく、又た有つてはならぬと考へて、基督を諫めたので御座いました。此の一事を考へましても、ペテロは基督を以て『基督なり』と明言いたしましたけれどもまだ〳〵基督の御眞意が其意中に徹底して居らなかつた事が能く分るので御座います。

しかし、基督は此ペテロの誤解に就て少しも失望なされませんでした。更らに基督は弟子達に向つて頗る嚴しい語調をもつて、眞に偉大なる教訓をなさいましたので御座います。(八章卅四—卅八)此教訓は啻に基督の運命を說明するばかりでなく、弟子達にも將た二千年後の我々にも、基督信者たる使命を果す秘密を敎える活敎訓として最も力あるもので御座います。

後六日にして基督はペテロ、ヤコブ、ヨハネの三弟子を伴ふて山に昇り、其處にて誰も見る事の出來ない自分の榮光を御示しになりました(九章二—八)基督は眞に耐忍と熱心を以て、種々の方法と導を以て、弟子達を敎育なさつたのでありました。

終に基督の運命窮つて、御亡くなりになる前晩、弟子達を殘らず會同なさいまして、其の死を紀念するために聖晩餐の式を御立てになりましたので御座います。(十四章二十二—二十五)今でも基督敎會で守る晩餐式は即ちこの基督の御立になつたのが守ら

れて居るので御座います。此の晩餐を終つて弟子達を御話になりました時に基督は今晩は最早私の死ぬる時であるが其時には皆私を捨てゝ離去ると云々と仰せられますと、ペテロは自負心に馳られて「外の人はいざ知らず私は決して基督を捨てない」と斷言いたしました。然し、基督はペテロに今日雞鳴かざる前に三次我を知らずといはん」と仰いましたが、ペテロは力言して前言を繰り返して強く言張りましたのてあります。(十四章廿七—卅一)

ペテロが斯く答へました事とこれから引繼ぎてのペテロの行動を照し合せて見るとペテロは實に輕薄な卑しむべき人てあるやうに考へられるので御座います。けれども、それは決してさうてはないので御座いまして、私共はこれ等の事實によつて、ペテロが頗る調子に乗る風の人てありまして物事に一々深く考へないて、只如何なる場合に際會しても先生たる基督を捨つべきてないと一圖に思ひ込て、斯く答へたと思ふので御座います。其はペテロの後先の事實を調へて見るとよく分る事柄て御座います。(未完)

## 衛生

# 救急法及看護法

周防　蝶子

すべて病氣は一寸した中に豫防致しますと大した事にならずに濟むもので御座います、それて素人ても簡單な救急の處置位は知つて置く必要があります故に本號より救急の處置或は看護法に就いて通俗的に述べて見やうと存じます。

集會の場所などへ參りますとよく卒倒する方があります、此卒倒にも充血と貧血とありまして何れも腦に關係がございます、其手當と致しましては貧血の時は頭を低くして安靜に空氣の清淨な處に休ませあまり大聲などにて呼び覺さない方が宜しう御座いますかく一定しても應答がなければ低い聲で呼ぶか又は刺激を與へます、それには冷き手拭にて顔を拭ふか或はフランネルの布て手足を摩擦し人工的に醒

まします、充血の時は脳に血液が充ちた爲に起るので御座いますから頭を高くして安静に空氣よき處に休ませ頭を氷か水にて冷します一定時たちましても醒ません時には貧血と同じく人工て覺まさせます、貧血でも充血でも――こうして醒めましたなら、水茶の如き興奮劑を與へます或は酒類でもよろしい。

高所より墜落して脳の震盪を起した場合には卒倒と同じ手當をすれば宜しう御座いますが墜落の時負傷を致しましたら其場所の骨が折れては居らぬか、脱臼しては居らぬか又傷の程度及び不潔か否かを檢めます醫師を呼ぶべきは勿論で御座いますけれどもそれ迄の手當が必要であります、單に傷がつきましただけならば其時に有り合せた布で假繃帯をします、傷が不潔ならば水などにて洗はぬ方が宜しう御座いますがあまり不潔なら清水、又藥があれば硼酸水、石炭酸水、昇汞水を用ひますが石炭酸、昇汞は濃きものを用ひました爲に間違が起る事等がありますから硼酸が最も素人には宜しう御座います、硼酸五十倍位にて洗ひ硼酸水に浸したる布或は熱湯をかけて絞りたる布をあてゝ假繃帯を致します、もし骨折があれば手足はぶら／＼致しますから副木をあてます先づ板片に綿をあて布を巻いたものを局部にあて手足を眞直に延して繃帯をし醫師を待ちます、骨折或は負傷の爲驚いて氣が遠くなる事があります殊に婦人によくあります、其時は興奮させる爲赤酒、茶、水を與へます負傷しました爲大出血がありますのは大きい血管の破れました印ですから大きい動、靜脈を壓へなければなりません、動靜脈などは素人には一寸分りません故、傷の上部を手拭又は繃帯にてしばり醫師を待つ間に出血を防いで置かねばなりません然し其時あまり強くゝりし爲に血管が腐るとか細きものを用ひし爲に反つて傷を作る事がありますから其部分に綿の樣なものを巻くとかしてしばる必要があります。

公衆中で卒倒者がありました時などに騒ぐのは宜しくありません靜に異りし場所に連れ行き休ませま

すと直ぐに恢復するもので大低のものは醫師に托する必要はありません、夏の日盛りに長く歩きましたり過度に働きましたりしますと目がくらみ顏は赤くなり充血を起します故道を歩いて居りましたなら木蔭の風の冷しい處にでもやすみ、家に居る時ならば窓を開き風を送り頭を冷します。男子の充血は酒の爲に起る事が多く御座います、之は中氣ですから勿論醫師に托さねばなりません。貧血は婦人の病氣後過度の運動、空腹の時等に起ります是非頭を低くして休めば直くなほります。腦震盪は高き處より落ち等した事に依つて起ります腦との關係が最も深う御座いまして、人事不省に陷り生命にも及ぼす事がありますから必ず醫師の處置を待たねばなりません。

次に看護法に就て少し述べて見ませう。

用藥法、藥にも種々ありまして水藥、散藥、丸藥滴劑があります、又食前何時間とか食後何時間とかいふ定めがあります、藥も飮ませ方によつて容易く飮まれるもので御座います、醫師の注意通りの時間に飮ませる事は勿論大切な事で其注意のないものはよく醫師にきかねばなりません、水藥は　劑を用ひますから沈澱します故に瓶を振りて後區劃だけを用ひます、飮ませます時熱のある時は口が渴きますので苦味、酸味は心地あしく感じますから含嗽をさせて後用ひます、散藥、丸藥も同じく口中を濕してから與へます藥により飮みにくきもの或は嘔吐を催すものがありますからオブラードを用ひます、オブラードには二種ありまして極薄いものは其まゝ藥を包みます事が出來ます故誠に便利で御座います、白色の厚いものは皿に水を入れ濕して藥を包みます、藥を與へました後には飮みしや否を確かむる爲に僅の談話を試みますそれは口に殘してをく樣な事が往々御座いますからであります。

滴劑は滴瓶に入れしものを水又は湯の中に點滴して用ひます、此藥を用ひますには必ず何滴といふ定めがあります主に強い藥が多く御座いますから一滴ても多く落ちました時にはそれは捨て新に點滴しま

す僅かな事の様て御座いますが一度二度と積りますと害になります故嚴重にしなければなりません。

次に藥を飲ませます時は重病にて熱高く頭を上げて飲む事の六ケ敷い時は横向の位置にして飲ませます仰臥ても宜しう御座います其場合コップは飲ませにくう御座いますから吸呑か急須を用ひます又匙に入れて飲ませます、一度に多量を與へますとむせて嘔吐を催しますから少しつゝ飲ませます、頭を持上る事の出來る者ならばコップで飲ませます。

次に吸入に就ての注意を申しますと、吸入は藥液を蒸氣として用ふので御座いまして咽喉の痛い時に行ひます或は咳嗽發作の時にも主として使用致します。吸入器の使用法は誰れも御承知の事と思ひますが釜の中に湯を一杯入れますと安全辨が離れて破裂する事がありますから七分目を程度と致します、又アルコホルは充分にありませんと火力が弱く藥液吸上が遲くなりますから健康體の者は宜しいのですが病人ことに子供は一分も早くと思ひますからアルコホルランプをよく試驗してから用ひますされば十五分のものは十分て濟みます、かけます時には藥液と湯の沸騰し霧の樣になつて出るまで外を向けて置きます、そうて御座いませんと湯が蒸氣にならずに出た爲に火傷をする事があります。

吸入に用ひます藥は醫師が指定しますが家庭で醫師の必要のない時は硼酸一パーセントにして致します咳の出ます時は重曹水一パーセントの割合で一日三回位致しますがもし咳甚だしく咽の痛みます時は少量のグリセリンを加へますと柔くあたり刺激しません、吸入器に就ての事はその位で御座いますが、かけます時霧がかゝりますから衣服、寢具、枕等は油紙、タオルにて被ひます子供等は衣服をかへます事を厭ひますから注意しなければなりません、重曹水を用ひます時は目にしみますから口だけ出して他を被ひます、そして器は五寸乃至一尺位離した位置にをきます、なるべく近ければ効が多い様に思ひますがそれは誤りで御座います、そしてなるべき口を大きく開かせ深い吸呼をさせます、咽が痛くて出來なければ普通にして居ても差支ありません。

## 彙報

# 横濱女子青年會

### (報告、茶話會)

我横濱女子青年會は三月七日(土曜)午後二時より會舘に於て、過去一ケ年間の諸般の報告會を兼ねて茶話會を開きたり。前夜來の暴風雨にて如何あらんと一同心配致せしが幸にして午後よりは思ひもよらぬ麗かなる春の光を見るに至り、一同の喜び譬ふるに物なく只々感謝の外言葉もなかりき前夜より來濱の河井幹事は早朝より來舘して種々準備に盡力され、同時にマクドナルド幹事も來濱され萬事好都合に運び、午後二時頃より漸次來會の方々は三十五名に達したり。皆内外の有力なる姉妹各學校職員方及會員にて其來會の榮を得たるは一同の滿足此上なき所にして只々滿面喜びに滿ち溢れ互に親しき握手やら挨拶やら談笑やらにて滿場和氣靄々たり。

思ふに我横濱の地餘り廣しといふ能はずと雖も人心の一致する上に於て無比の美點を現はせり。是開港の地にして幾多の人々の同情心に富める因由なるべし。我女子青年會の如きも創設以來僅に一歳に滿たんとするに過ぎざるも幾多の同情姉妹方は喜て迎へ給はり厚き同情の翼助を與へらるゝも多くありきされば將來に於ては一層の援助を得て婦人の爲めに大會舘を打建て内外相睦みて有益なる團結と集會を見るに至らん事の必然なるを信ず。

此日尾上町大橋繁子夫人よりは多大なる御寄附に預り、西川夫人よりは蓄音器を貸與せられ、外人方よりは珍菓を贈られしなどにて來會者一同親睦談笑して五時頃散會せり。今其會の順序を擧ぐれば、

一、讃美
一、聖書朗讀
一、祈禱
一、挨拶　河井道子
一、報告　藤田貞子

一、謝辭　　會員總代　芳尾千代子
一、横濱女子青年會の將來　河井道子
　　　　　　　　　　　ミス、マクドナルド
一、協議
　一、役員常置員組織の件
　二、音樂會開催の件
一、茶話會

なりしが、其協議內容は本會は從來本部直轄の許にありしも今後は獨立の支部として役員、委員を選擧し獨立組織となすべき期近けるを以て來會者は夏迄に此件に付き熟考されたき旨を幹事より述べ、高木夫人は本會の維持費及び目下醵金中なる男子靑年會に幾分なりとも寄附せんの目的を以て四月中旬音樂會を催さんとの議を提出し滿場一致を以て可決し、直に左の委員を擧ぐ。

委員長　（外國人側）ミセス、フレザー
　　　　（日本人側）室原富子
　　　　　　　　　　秋山まき子
委員　藤田貞子、高木すゞ子、吉川トヱ子
　　　芳尾千代子、渡邊いね子、湯淺いと子
　　　片桐やそ子

又左に當日の會員惣代の謝辭及出席者の感想の一を揭ぐ。

・謝辭　　横濱會員　芳尾千代子

此の横濱女子青年會は東京本部のミス、マクドナルド、河井先生藤田様などの熱心な御盡力と横濱の或る方々の暖かい御同情の中に生れたので御座います。そして此の會の目的は一般女子の社交を博くし智徳を進める爲めに設けられましたので特に横濱市內で職業に從事して居る婦女子に慰安を與へる爲に開れましたと云ふ事は私共に取りまして誠に幸福な事であると思ふので御座います、殊に場所といひ設備と云ひ室內の裝飾其他私共の思ひも付かない様な細い事に至る迄心を用ひて下さいました事は私共一同深く感謝致す所で御座います。

御承知の通り女子が何種類に依らず職業に從事致しますと云ふ事は非常に努力を要する事で御座いまして學校、會社、銀行、商店に致しましても勤務時間は勿論仕事の性質、分量なども男子の方と同じ様にしなければならぬ場合が多くあります、しかも女子には種々細かい用事が多いので御座いまして共も忠實にして職業も熱心に致すと云ふ事は非常に身體を疲勞させるのでございますそれのみならず種々の境遇や周圍の事情の爲め心を勞する事も隨分多いので御座います扨斯ういふ結構な處が開かれましたのですからお晝の短かい

時間を利用致しましして玆に參り皆樣と樂しく遊びましたり又は休息をしたり致しましして心身の疲勞を回復し亦務めて趣味を高尙にして向上の精神を養ふといふ事は私共働く者に取つて最も必要な事であらうと思ふので御座います。

然し此の靑年會は決して私共少數の者に娛樂を與へる爲めにのみ設けられたのでは御座いません、有ゆる階級の御婦人方が玆に御出で下さいまして御休養をなし又互に親睦をなし淸い交際の中に神の愛を味はひ神の恩寵に浴して己れの接する人々に善い感化を及ぼしまだ神を知らない人々を一人も多く神の御許に導くといふ事が此の會の第一の目的であらうと思ふので御座います。どうか皆樣が玆に與へられました賜物を喜んで御受け入れ下さいまして各々がこの會を種々の方面に善用して下さる事を切に御願ひ致す所で御座いますそして御同情を以て直接に間接にお助け下さいましたならばこの靑年會を單に暖かい美しい會とする事が出來る許りでなくこの橫濱市に取つて何か有益な且有力な會とする事が出來やうかと思ふので御座います。

誠に不束な者で御座いますが種々熱心にこの會の爲めに御盡し下さいます方々に一々御禮を申上る事も出來ませず亦本部の幹事の方々にも改まつて御禮を申上る機會も御座いませんので、唯だ今日此會に列しましたのはよい機會と存じまして毎日喜んで此處へ參ります少數の者に代つて一言御禮を申上た次第で御座います。

## 會後に友人と共に

橫濱會員　高田とし子

本日の會後出席せし某友と二人でぶら〳〵歩きながら當日の感じなど話しまして七時半頃歸宅致しました、今度は私は色々のよい事を澤山學びましたあの夜色々の事を考へましてとう〳〵朝まで眠れませんでした、いつも〳〵橫濱へ歸宅致しますと東京の事務所に歸りますのが厭になりまして困りますが今度は何となく新らしい望を有つて歸京致しました、友人も色々と勇氣づけられ大變に悅んで居りました、二人であの靑年會が出來まして以來どんなに二人の心によい感化を與へられたかといふ事をさん〳〵話しました、去年の今時分は私共は頗る世俗的で御座いましたが會が出來まして色々と思念も進歩して參りましたと存じます、今は常に淋しい心の人に一言なりと優い親切な言葉でもかけて慰める事の出來る本當の美しい者になりませうと御互に繰り返し〳〵申して別れて私は又東京に參りました、親しい友と別れて居る事は誠につらひので御座いますが斯うゆふ樣に考へました時には本當に嬉しう御座いました、私は本當に近頃の幸福といふ事を感謝して居ります、常に〳〵此事は嬉しく存じて居りますが今度の歸濱で何ですか一層深く感じましたので思ふまゝを亂筆致しましたので御座います。

尙ほ、前記の協議決定せし音樂會は、四月十五日橫濱市山手フェリス女學校講堂に於て開會の事に運び委員長はじめ委員會員一同其準備中なり。

## ○東京基督敎女子靑年會

委員會　三月四日午後三時デビス氏宅にて開會、出席者は今西、山室、福井、新渡戶、ピカステス、エルウイン、デビス諸夫人及びマクドナルド、ページ、ワトネ諸氏。

ミセス、エルウイレの聖書朗讀、祈禱を以て開會せらる。去月行ひたる萬國學生祈禱會のために感謝し青年會諸事業の爲め、特に日本在留支那學生の爲めに祈禱せらる。

今西夫人は寄宿舍の財政及其隆盛に就いて報告あり。小室夫人は新らしき建物のために多大の寄附を受けたる氏名の報告あり。

岩　原氏　金百圓　山　本氏　金二百圓

長尾半平氏　金百圓

宗教委員は去月廿二日の祈禱日には本會へ通知越したるもの丶みにても市內各所に於て三百四十人の者が集合して祈禱したる事、並に當二月より女子大學の近傍にてミス、ワトネの聖書の組を復興開始したるの報告あり。

聖書の組出席人員は百六十六人なり。

上野事業に就ては、現在の銀行預金七百三十六圓拾二錢五厘あること、及び大正二年十二月十八日より同三年二月末迄の宿泊者十八人ありし事等の報告あり。

新らしき建物に就ては設計圖面を成可く三月中に完成確定の希望相談あり。

例年の總會は五月に爲す事に定めらる。

▲工場集會　本所押上なる富士紡績工場の工女の爲めの集會三月三日午後一時より開かる。當日は宛も上京中の横濱聖經女學校生徒諸姉も來會されたれば賑かにて頗る盛況なりき、山室軍平氏の司會並に談話にて氏特有の興味と力とに充ちたる語調にて先頃逝去せられたる石井十次氏の葬儀より氏の人格につきて平易に話されたり、出席工女はいつもと同じく百五十人程なりき。

▲新入會者　左の如し。

石原しん子　入江千代子　三瓶みどり　宮木　由香

ミス、カザリンホール（以上通常）

山本すゞ子（維持）

現在會員總數　通常百四十四人、維持八十九人。

○萬國學生祈禱日報告（二月廿二日）神戸女學院青年會　午後三時會員其他講堂にて本部より

送附下されし趣意書を讀み多數の會員は祈禱をなし又當日の爲に前以て御願ひ致し置候救世軍の一ノ宮氏の熱心なる御感話を承り大層有益なる會合にて候ひき。▲女子傳道學校青年會　萬國學生大祈禱會を催さるゝに付當校講堂に於て午後三時より開き申候ついては田口舍監司令の許に開かるゝ可くの處病の爲多田會長司會讃美奬勵感話五六名の祈禱ありて神の大なる惠の下に閉會致し候來會者は四十名小さき集なれども萬國學生大會の爲に祈る特權を與へられしを感謝すると共に益々深き惠あらん事を祈り居り候。▲東京女子青年會　田町本部と合併し牛込區田町三丁目十二番地本部に於て祈禱を催す。聖書の組指導者、同生徒其他の出席者三十名程にて司會者は今井壽道氏にして、かゝる大規模の祈禱に就きて講話せらる。ミセス、エルウインは支那の學生に就きて、大呑姉は露國の學生につきて、星野姉は祈禱に關して所感を述べられたり。▲聖アリヤ館　麴町なる同館に於ては來會者八人、祈禱趣意に基き祈禱をなす。某姉は朝鮮に就きて話され、他にレーク、モホンクに就き、また印度其他の諸國と日本の學生の働きとを比較して話されたるものあり。頗る有益なりき。▲香蘭女學校　に於ては集會者四十名、祈禱日に關し二人の感話あり、引續き趣意書により祈禱をなす、出席者中には未信者も少からざりしが、みな熱心にて非常なる集なりき。▲曉星寮　小石川雜司ケ谷町百〇八、同寮に於ては出席者十名、始めにミス、ラウスの日記を讀まれ、後祈禱を爲したり。▲東洋英和女學校　に於て、出席職員生徒併せて百廿五人、祈禱に先ち、卒業生の一人の簡單なる奬勵あり後は凡て祈禱に捧げたり。▲青山女子手藝學校　に於て出席敎師五名、生徒廿六名、本多監督未亡人司會をせられ、有益なる感話ありろ後祈禱に入る。▲女子英學塾青年會　同校に於て出席四十六名、司會者、上野梅香姉にて津田塾長よりレーク、モハンクに於ける各國學生基督敎青年會代表者會議の模樣に就きて談話祈禱あり、つゞいて三姉祈禱、河井道

子先生は高等教育を受けたる者の責任如何に重きかに就きて語られ。讃美、默禱を以て閉會。▲女子學院青年會　同校に於て出席卅一名、ミス、タードの祈禱に就きての談話あり、引續き祈禱し有益に過されたり。▲納戸町第一寄宿舍　舍内に於て午前六時半より開會し、九名出席、聖書朗讀及祈禱書朗讀後祈禱せり。▲駿臺英和女學校　駿河臺に於ける同校に於て十七八人集會して祈禱す。

○旅行者の友報告　松崎姉が二月から御手傳下さるので大層助かります、私は朝五時の汽車に間に合ふ樣停車場に參り午前中詰めて居りますが午後よりは宿泊させた者の身の振方について奔走致して居ります。

二月十五日から三月十五日迄に十三人の宿泊人がありまして短さは一日長いのは十二日も滯在して居りました、又其中にも最早出産間際になつた樣な哀れな婦人も居りまして産婆を呼ぶやら夜中三井慈善病院へ連れて行くやら大層な騒ぎを致しました、其上嬰兒が死亡致しましたので其屆やら目に見えない仕事が重なりました。五人の者を他に奉公に遣りましたが一日で逃げ出す者や、二三日で泣いて歸つて參る者や又はわからずやの親が始めは御頼みしますといひ乍ら又連れに來て工場にやる又其子が逃げて來る其混雜は一々申上兼ねる程です。

これからの問題は是等の救濟した婦人をどういふ樣に處置したらよいかといふ事で何か大きな救濟事業と關係をつけ奉公にやる口を廣くしなければならないと思ひます、ともかくかゝる仕事は身體の丈夫な信仰心の厚い人でなければ到底出來ないと思ひました。或時等は一晩に五人も泊めた事もありますし奉公先から出て來る者がありますと頭はがん／＼痛み出し夜の目も眠られませんたゞ神樣善き智慧を與へて下さいましと心から祈る外ありません、幸に家主も親切にしてくれ色々便宜を計つて呉れますので都合よくなつて居ります、此度博覧會が開かれましたについて停車場は雜沓し仕事は爲にくゝなつた樣

な感じが致します。（林主任報告）

尚ほ旅行者の友事業の詳細なる模様を紹介するために松崎氏の事業日誌を左に掲げん。

二月十六日、午後五時十分、仙臺よりの列車にて一人の娘下車大久保腦病院看護婦勤務中の實姉を便りて來し者所持金あれど方面不明なりと云ふに人力を貸して送る。午後六時過停車場内のベンチに腰かけ居たる五十歳餘の婦人少しく精神に異狀なきやの疑あれど木賃宿に宿して其日を稼せぐ者現今糊口に窮し此處へ參り構内の掃除して若干錢なり得んとすれど一錢もめぐむ人なしと語る林姉に何とか救濟の方法はあるまじきやと計りしも旅行者にあらざる者且つ職を求めて足らぬながらも今日迄糊口を凌ぎし者故救助の必要はあるまじとのことにて止みぬ。

午後二時三十分の列車にて古河より來りしと云ふ十二歳の無賃乗客あり車掌室にて語るをきくに母は家財を持ちて逃走し父に連れられ古河ステーションに來る父は便所へ行くと僞り其儘姿を隱せりと上野ステーションより救世軍へ紹介して救濟の勞を取らんとせらる然るに七時三十分迄音れなしこの少年空腹に堪へずと訴ふ氣の毒に堪へず、食事を與へステーションより歸らんとする折しも來場せられし救世軍大尉高松竹三郎氏へ托す。

十七日、午後七時三十分、一人の娘兩手に大包みをさげ急ぎ構外へ出行く車夫乗車をすゝめて止まず行先を問へば車坂町と云ふ人力を貸するの必要なしと車夫等を追拂ひ娘を助け目的の家へ送る以前の車夫等さゝやいて曰く「アレハ女探偵だらふ」

十八日、午後七時四十分、若松より來りしと云ふ三十五六の婦人汽車に醉ひて待合室に横臥す氣付術を試みしに數分の後氣分快復して去る。

十九日、午後六時日光よりの列車にて來りし一人の娘構外へ走り去らんとするに行先きを問へば赤羽より下谷に住する姉の許へ使ひに來りし者怪しき者にあらぬを證して去る。

二十日三、寒氣烈敷き爲めにや乗客減じ場内いと靜かなり、事件なし。

二十四日、昨日より警察に止置ある女子一人引受を願ふと驛の巡査の話により直ちに訪ひ見しに一時間前一人の婦人來りてこれを伴ひ去ると林姉なるべしと思ひ安意を覺ゆ。

二十四日、午後六時日光より來りし一人の娘例の如く風呂敷包みを抱へて下車、一年前の舊主人を便り行く者、本日この女の來着を待ち居ると事實と認め人力にて目的の所へ送る奉公口に困りし時は通知せよと名刺を渡す。姓名は淺見きよ。

二十五日、午後六時の列車にて來りし兄弟二人姉は十六弟十歳大なる重量の行李一個を受取り本所柳島へ行くと六十一錢の車代を貪し二人乗にて送らんとする時兄なる者急ぎ來る人力の必要なしとて其行李を背負ひ三人打連れ徒歩にて行く、日は暮れたり道は遠し電車にて行けと言へば二里位は何でもネーだ。

二十五日、午後七時三分、仙臺よりの列車遲刻七時半着大小七人の一行五人の少女に近より竊かに行先を問ふ何れも知らずあの人が知ると二人の男を指す交番に連行き調べの結果二人共同して一人三十圓宛拂ひ二十歳迄工女に雇入れを約せりと何れも親の承諾あり證書明かにして如何とも詮なし將來をいましめて解放せり折しも一人の査公二人の職人體の男を連來り一二言調べると見しが言語曖昧な

りとて大喝一聲平手で二人の頬を打つ已れ驚き倉皇退出。

二十六日、五時十分、仙臺日光よりの列車二十歳前後の女子富士紡績に歸る者實姉死去の報に接し歸鄕せしが再び上京會社へ歸る者と知る電車にて送る。

同、七時半の列車に今日も亦十有餘名の少女を連れたる一行來るこれら可憐の少女は東京を夢みて來りし者境遇の然らしむる所以とは言へ親まづ先きに甘言に醉ひ僅少の金員に可愛の兒女を無知の人に托ししかも將來の出世を夢むとは、ア、。

同、九時十六分、仙臺よりの列車にて來りし娘途中切符を失ひしと云ふ車掌等は無錢乘車と言張る上京の目的を問へば千住の邊に雇はるゝ友人を便り無斷家出せしと答ふ乘車賃の免除を乞ひ林姉の許へ送る途中かれ空腹を訴ふ、時は十時、林姉を煩はすもと食事を與ふ。

二十七日、午後七時半、一ノ關青森よりの列車にて下車したる娘親の用事にて埼玉在へ行き粕壁の實家へ歸ると云ふ新宿發九時の列車は粕壁着夜の二時半十一時發は翌朝の五時なりと少女の夜行は危險なりと止めんとすれど頑としてきかず母が迎へに來る筈今晩行くと言張る止むなく上野電車にて新宿へ送る發車間際に窃かに若干金を出して禮せんといふ、さる必要なしと言へばたゞでお世話下さるのですか、ありがたうと喜び去る。

同、八時二十八分の列車到着混雜の際包みを抱へウロ〱する少女あり例により行先を問へば知らぬ顏して横を向く左右に廻り重ねて問ふ、彼れ立腹の體にてワタシの行く處はワタシが知つて居る、アンタ夫れをきいて何にすると夫れでは巡査にたのみますと行かんとすればこれは俄かに態度を改め言葉靜かに語るをきけば彼れは下車したる者にあらず埼玉地方へ歸る者友人をまちて玆にありと一禮して去る。

二十八日、午後四時四十分の列車にて茨城より來りし十七歳の娘ありと査公の通知に行きて見る、無斷家出の事情は繼母との不和合に原因す、可憐の少女なれば直ちに受取り林姉へ托す。

三月一日、日曜日、此日場內に三人の死者を出す一人は驛夫にして作業中誤つて轢死を遂ぐ。他は十七歳の娘重症患者にして驛夫抱へて汽車より下ろす行先交涉中ベンチに横臥して死す二時間の後親戚來り引取り行く。今一人は三十有餘の男腦病患者らしき者營養不良にて步行も自由ならずと何か目的を有し上京せしも萬事意の如くならず病氣を苦にやみ死を遂げしならんと。

四日、日光よりの列車午後六時着三人の娘下車行手を問へば本鄕なる父の許へ歸る者曖昧の點なし三人人力をつらねて去る。

五日　午後五時十分、仙臺よりの列車を迎へて後、上野電車にて日暮里へ行く上下に乘降口あり不便極まりなし本線の待合室に一人の娘を見出す一月初旬無斷家を出程ケ谷の工場に職を取る二ケ月粗食と苦痛に堪へず兩親に詫び旅費を貰ひ仙臺へ歸る途中誤つて汽車を間違へ此處に下車したり、母がステーションに待ち居る筈なれば早く行き詫ねばならぬと云ふ强て止むるも如何と注意を殘して袂を分つをりしも來りし六時五十分の列車にて上野へ歸る。汽車代七錢。

五日、午後七時四十五分の列車にて來りし娘怪しと見止め誰何すれど一言も發せず待合室に誘ひ靜かに問ふ、彼れ長太息して云ふ閲を出る時友人語りて此頃上野へ一人でゆけば某婦人によび止められ身許を調べられるといひしが果してその如くなりし私は怪しき者に

てはなく、兩親の承諾を得て麻布網代町なる姉の許へ裁縫の修業に來りし者、突然貴女に聲を掛けられ驚きの餘り失禮したり新聞に出されはせぬかと氣遣ふ、去る事なしと言へば安心して去る、電車迄送る。

六日、午後五時十分の列車にて桶川とかより乘越し來りしと云ふ二十七八の女子あり改札係員室にて自身が着する羽織をぬぎ將に車夫へ渡さんとす、其理由を問へば父の窮境を救はん爲め田舍へ奉公の目的にて口入業者に誘はれ行きて見ればダルマ茶屋なるに約束の僞りなりしを悟り三日滯在の後一物をも手にせず無斷家をぬけ出十三錢だけ所持して汽車に乘込み上野驛に下車し事情を悟り人力を賃し橋場なる實家へ戻りて見れば、父は前夜母と共に行衛不明、兄は負傷して入院せしなど一大變事の起りし矢先き、四十錢の車代を拂はんとすれど九錢を殘すのみ、途方にくれ羽織を車代に代へんとする處なりとて綿入一枚にてふるへ居る樣同情に堪へず三十一錢を支拂ひ羽織を本人へ返しやる汽車賃は十二日持參の約をして歸宅せしめぬ。

七日、午前十一時、一人の女子査公の手を經て林姉の許へ送らる。

九日、午後五時十分、仙臺日光よりの列車顏色蒼然病者の如き女子下車待合室に誘ひ上京の理由を聽くかれ涙と共に語るに年は十九歲にて姙娠八ケ月家政不如意の爲め夫婦分離し夫は王子へ職を求めんとて去月出發婦は止むなく奉公に出づ然るに良人より音信なし勞苦の餘り主家を出て王子へ行き居所を尋るも見當らず詮方つき上京せしもたよるべき所なし加之腰のあたり痛みて歩行困難なりと直ちに打連れ林姉に托す。

藤原巡査場内に佇ずむ盲人を捕へ調べの結果これは岩手縣より徒歩上京按摩治療を職として糊口を凌ぎしも粗衣粗食乞食も啻ならぬ風體に療治を乞ふ者一人もなし、二日間一粒も食せず、加之寒氣烈敷凍えんばかり、せめてストーブに暖を取らんと場内へ入込みし者と分る、一飯を與へくれと査公の言に食を與へ、尙翌日の食料として二十錢を惠與し救世軍に紹介す、然るに翌日まで待つてくれとの言に驛の助役に交涉して場内に一夜を明させ、明朝救世軍に托さんと思ふ、歸途再び林姉を訪ひて打合せをたのみ歸り來りしは十二時、食九錢惠與二十錢。

十日、例刻出勤、盲人の行衛を尋ねんと交番へゆく査公語りて云ふ今朝救世軍より大尉來訪、兎に角一週間自活して見よ、如何しても糊口する能はざれば本部へ來れと、一日の宿泊料を與へ淺草方面へ去らしめたりと、乞食同樣の粗衣をまとひ、しかも營養不良の盲人へ些の手當もあたへずして自活せよとは無情なり、己れは酷の所置と思ふ。

十一日、實姉をたより上京四谷なる住居へ尋れ行けば姉は一兩日前家出して行衛不明なりときゝ失望の餘り再び歸國せんとする十八九の女子を見出す當地に止まり奉公しては如何にと尋ねしも是非國へ歸るとて行く。

同、冴返りたる寒さに暖を取らんと改札係員室に入る四方八方の座談と宗教談に餘念なきをりから一青年の係員俄かに襟を正し私は斷然今より基督敎信者にならんと決心しました、私は頃日來基督敎信者の人格の高いのを見て羨望に堪えません、何卒然るべく御指導を仰ぎたしと、眞面目なる態度にて言ふ、己れ職を奉じて以來、每日此室に出入し彼の有爲の青年が無意義の雜談に貴重なる短時間を浪費するを見、心竊かに悲しみ、ボールス夫人に語り有益なる小册

誌をかれらに與へ精神談様のものをなしし事あり否今も尚試みつゝあり、故にかの青年の決心を聴き心中喜びに堪へず、何らかの方法に依りかれら全員に最大の力を知らしめんと、一意專心思ひ思ふ。

十三日、午後六時、日光よりの車列到着一人の娘ベンチに腰かけ義兄の迎へに來るをまつあり次ぎの列車を迎へかの女は如何と行きて見れば今將に人力に乘車せんとす、其時査公急ぎ來り、かれを引達して、交番へ行く、蓋し、彼女が茫然と佇む處へ二人の書生馴々しく言葉を交はし頻りに誘ひ去らんとするを見止めたる平服の査公ありて密告せしなりと、交番より人力にのせ目的地へ送る。

十三日、七時三十分、日光發臨時列車到着四百人の老若男女團體下車附近の旅館は皆灯燈をかゝげ樂を奏してかれらを迎ふ場內わるゝばかりの騷擾を極む一同列を作り場內を練り出せしはいさゝか奇觀なりき。

十四日、寒氣嚴敷雨天なれば乘客減少場內さびし。

## ○在外姉妹の同情

北米加洲ロースアンゼルス市女子青年會にては東北飢饉、櫻島災害救助金を募集し左の如く當本部へ依賴越されたり。在外姉妹方の厚情感謝に堪へず。

謹啓先きに東北の大飢饉あり食ふに食なく被るに衣なく多數同胞の飢餓に迫れる慘狀の悲報に接し深く同情に堪えざる處に候續いて本年一月十二日突然櫻島大噴火震災凶變の飛電を耳にするや私共在外の婦人滿腔の同情に堪へず如何にも座視傍觀するに忍びず直に本會は役員會を開き滿場一致を以て義捐金募集を可決仕候幹部總掛となり卒先して募集に着手せし處幸に同情厚く義氣に富める志士淑女喜んで本會の主唱を賛助し奮つて喜捨致され候米金貳百八拾弗貴會宛御送金申上候就ては貴會の御手を煩し澁澤男主催の中央救濟會を經て東北飢饉並に薩南震災地へ御寄贈いたし度候何卒可然御取計ひ被下度此段懇願仕候。

大正三年二月

南加日本人基督教女子青年會

會長 黑石夫人

會計 田中サダ

○**河井總幹事** には今回婦人傳道會社の依囑により朝鮮傳道應援のため出張する事となり去る三月廿六

日夜行にて出立されたり、歸途には四月十日より十日間九州地方に開催さるゝ聯合傳道團にも參加さるゝ筈にて歸京は多分四月中旬なるべし。

●●●●●

○社會事業講演　日本女子青年會本部に於て三月十七日夜『社會救濟事業の根底』に就き博士ウエンライト氏の講演を請ひしが出席者凹十餘の內外婦人にて頗る有益なりき。

## 雜報

○全國協同傳道京濱修養會は敎役者及び敎會役員の爲め三月二日より四日迄東京青年會に於て擧行す、植村正久、宮川經輝、海老名彈正、柏井園、井深梶之助、元田作之進、星野光多氏の說敎講演等ありたり婦人の出席も多かりき。

○博覽會傳道會　大正博覽聯會合基督敎傳道會場は上野不忍池畔に新築竣工して三月廿二日午後二時より小崎弘道牧師の司會にて左の順序により開會式を執行したり。

一、奏　樂　ホイトマン
一、讚美歌（第四百一番）　會衆一同
一、聖書朗讀　宮田孫太郎
一、祈禱　ウエーンライト
一、說敎　星野光多
一、奬勵　秋月致
一、奬勵　山室軍平
一、讚美歌　四部合唱
一、建築幷事務報告　幹事　立田果
一、祈禱　稻垣信
一、讚美歌（第四百番）　會衆一同
一、祝辭　大正博覽會長　宗像知事
一、祝辭　大正博覽會協贊會長　阪谷市長
一、祝辭　基督敎婦人矯風會長　矢島楫子
一、祝辭　日本禁酒同盟會長　安藤太郎
一、挨拶　委員　松野菊太郎
一、挨拶　委員　アツキスリング
一、讚美歌（第四百六十二番）　會衆一同
一、祝禱　タムソン

以上

○金城女學校　名古屋市の同校は今般校舍を新築し高等女學校令により學則を改正し文部省指定申請中なり同校は明治二十七年創立にして卒業生を出す事十八回其數百二十六名に及ぶ、敎員は現在十二名舍

監一名にして文部省教員免許狀を有する者十名なり校風質素篤實にして寄宿舍は和氣靄然として一大家族の如し教師生徒間に於ける平和、親愛の情は他に此の類を見る事稀なり。愛知、三重縣附近は兎角女子教育不振の土地なるを以てかゝる良校の校舍一大擴張は斯界の爲大慶事なり、同校の盛隆を祈ると共に同縣下の諸君に紹介す。

○女子學院　第二十四回卒業式を二月二十六日擧行す全科卒業生十二名、高等科英語修業生五名式後代議士田川大吉郎氏演說さる。

○女子英學塾　第十二回卒業式を三月二十八日擧行し、法學博士浮田和民氏の講演ありき。

○普連土女學校　第二十一回卒業式を三月二十七日擧行高等科卒業生一名本科卒業生十二名にして東京市長阪谷男爵の演說ありき。

○捜眞女學校　橫濱なる同校は四月四日第十六回卒業式を擧行す、三月廿九日には神學校教授高橋楯雄氏の卒業生に對する奬勵說敎ありし由。

○宮城女學校　仙臺なる同校は三月二十八日第二十二回卒業式擧行卒業生十四名、森宮城縣知事の告辭遠藤仙臺市長、北條東北帝國大學總長の祝詞等ありき。

## 消息

○田村メリ子姉　本會副委員長岡見京子氏令孃なる同姉は三月十日永眠さる、こゝに謹みて哀悼の意を表す。

○池田照子姉　德島女子青年會支部役員なる同姉は病氣保養の爲房州に轉地され居りしが此程全快され其歸途三月十四日本部を訪問さる。

○ミス、ベーカー　本會幹事ベーカー姉は兩親觀光の爲來朝さるゝを以て十六日長崎に出迎の爲出發す

○ミス、ワトネ　東京女子青年會幹事ワトネ姉の嚴父並に姉君には四月觀光の爲來朝さるべきにつき出迎のため神戶に赴かる。

○多賀父君の永眠　會員多賀艶子姉の御父君には永らく胃癌にて御靜養の處二月廿三日永眠せられたり

○大川、馬屋原兩姉　四月一日より東京に於て開催さるゝ英語教師會に會友大川喜代子姉、馬屋原妙子姉其他御上京の筈。

# 讀者便り

## ○この母親しつかりせねばならんと思ひます

朝鮮平壤　小林秀子

在學中習ひました教訓即ち事物の善き側を見る様にとの事胸にきざまれて居りました御蔭様で無事に四年を通る事が出來まして誠に有難く改めて御禮を申上ます、順子も三歲と相成り歩む事は勿論パパー、ママーと申す様に相成ママーと呼ばれる度每にひとしほこの母親しつかりせねばならんくと思ひます私は順子が眠る間に針仕事を致しますので守をしながら新聞讀むとか手紙を書くとか雜誌を見て暮して居ますので子供も本もずき手紙書く眞似などして鉛筆でいたづら致して居りますから一時もうつかり致されませんので閉口いたします、只今小林はコールブラン氏社長なるソールマイニングカンパネーに居りまして社員は米國人、英國人、獨逸人、和蘭人、朝鮮人、日本人と御座いまして電力部は全部日本人とは申せ十人餘りしかありませんから誠に淋しう御座いますが呑氣で御座います平壤は誠に貸家が少なくて閉口致して居ります。

## ○折あらば斯る讀物を御勸め申度存候

奉天　森川仲子

私事當地(奉天)に參り候以來當地の人々の俗事的の事柄にのみあこがれて精神的方面には割合に注意致す人少なく御つきあひ致す婦人方とは心からの御交り出來ぬ心地致され、ひたすら塾時代の生活をなつかしく淋しきまゝに、豫て加藤高子様に御賴みいたし青年會の雜誌は每月かゝさず拜讀致し居り折あらばかゝる讀物を廣く在奉天の婦人方にも御勸め致し度存候へ共未だ其時機を得ず殘念に存じ居候、倘引つゞき購讀致し度候まゝ此後ともよろしく御賴み申上候。當地にもさゝやかながら教會有之私の來奉當時は中山と申す牧師いらせられ殊の外親しく相成り私の方よりは餘り遠路の爲每日曜日には禮拜に參り兼ね候へども同氏は月に一二度は御來訪下され色々と御話も承り居候處昨年の六月歸京され未だによき後任を得ず困り居り候まゝ私共の爲に朝夕の御祈の端に御加へ下され度候。

## ○今日は三月一日で大雪降り

北海道　再孫子八重

近頃三好待子様御紹介被下「女子青年界」の御發送をうけ大變に有益に讀み且つ感じて居ます先生はじめ其他の名士方の御說を承り田舍住居の淋しき身もさながら其席にある心地が致されます誠にありがたく厚く御禮を致して居ります、北海道は本年は實に面白い天候で御座いまして一二月は誠に暖かく當地方ではさながら四月頃の氣候で御座いました今日は三月一日で御座いますが大雪降と相成此分にては又々大吹雪もまわり來る事と存ぜられます、冬の寒き時雪に手足の冷たき時など過去の少き時代を思ひかへしては小樽にて河井先生より親も及ばぬ御親切なる御教育を受けたる事をしみじく有がたく感じて居ます月光に裏から大石小石を運んだり春早くから前の雪をかきやりて青草の他より早くに出づるを樂しんだり一つとして先生の御元氣なる御活動ぶりを表はぬはないと當時は何の氣なしにありし身も今更思ひかへしましては敎へらるゝところ一層多い様に御座います、只今はもはや二人の子供を與へられまして每日忙はしく且つ樂しく暮して居ります

倚ほ力なき者の上に天よりの御助けある様に且つ信仰の失せぬ様に御新の端に御をぼえ下されます様に願上ます、まつ子様も大連にゐらしてから何となく片手の失せし心地致して心淋しう御座います然し信仰の生涯にはそんな淋しみはなく大なる希望のある可き筈と存ぜられます。

## ○お正月を二度致し〻様に御座候

大連　三　好　待　子

本日は支那人正月の十五日とて内地の祭日の様にて山車様のもの町内を練り歩き夜更迄煙火喧ましきといふ次第、お正月を二度致し候様に御座候、今月の「女子青年界」の御會說誠に感じ申候度々自分に失望致し　歩の遲々たる私には大なる奬勵と敎訓にて深く感じ申候、何卒日々に新たに神に近づかんと勉めたしと希ひ居候加藤高子様の御日誌は非常の趣味と又感謝もて拜讀致し申候橫澤様の御働にも實に眞心ある人信仰の人の内に働き給ふ神の御力の大なる事を悟り申候。

## ○昨夜迄は迷へる羊であつたでせう

札幌　橫　澤　つ　ぎ

私は此頃ひし〳〵と當地に於て自分の働くべきといふ事を考へます少しなりとも人に神と申す事を知らしむる事が出來たとしたら本當にこれ以上の幸はありません自分は本當にキリストに似た者に成れぬ事はない確かに成れるのです、それに餘り早く自分を駄目と思ふてるのです、これも亦一つの罪ですもつと〳〵此身體を靈化させたいと思ひます、日々の自分の行爲に於いてキリストを示します一つ〳〵の事に當りキリストは何をなさるかを考へて致すつもりで居ます、宗敎を信じて居ますので幸な者である事を認めて嬉しく思ひます、それに引きかへ日頃の耻づべき行爲實に苦しく思ひますこれよりこそは新たに生れたつもりです何にしに當地に來てるかをつく〴〵今日考へました、神が私如き不束な者に與へ給ひし此愛すべき女の子等を少しなりとも私が居た爲に幸あるものと成らせ度思ひます「死に至るまで忠實なれ」との句が胸裏を往來してゐますもつと〳〵眞理を愛するものと成り度いと思ふて居ます、全心をつくし神の爲に働きませう私も昨夜迄は迷へる羊であつたでせう、私はキリストのあのあたゝかな腕の中に抱かれてやす〳〵と働きつゝあります、實際キリストに依らで他には眞の平和は見出す事は出來ません苦痛と思ふ事も神の愛心からの懲しめの事が度々あります「ある時シベリアの荒原を一人の馭者が一婦人と子供とを乘せて行きましたところ餘りの寒さに婦人は子供を抱きしまゝ凍死せんとしたのですそこで馭者は子供をとり自分の胸に抱き其婦を棄てて外に出し馬を走らせました、婦人はこれで漸く正氣になり追ひかけましたから其爲に身體溫まり生きかへりし」との話私共は生きかへされる爲には棄てられねと駄目です、私はいつもこれを思ひ出しますこの話は牧師様に伺つた事ですが實に身にしみます此頃は聖書を讀むのが樂しみにて夜も更けるを知らず讀みますあとで祈りをしますが學校時代は義務的にした事が多かつた樣思はれますが此頃は神の懲らしめの爲に增々神に近くなる心地され祈の時には「オヽ神よ」と叫ばずには居られません。

## ○御國の建設せらる〻様いそしみ居候

福島郡山　村　上　運　子

都の方は昨今梅の花盛りとか承り候へども此處東北の郡山は吹く風

も肌寒くかたき蕾の綻び初むるには尚ほ時ある事と思はれ申候さりながら一日毎に春めく野邊の景色を見渡すにつけ神の妙なる御手の業を一しほ深く身にしみ覺え申候。不束なる者も御力を常に仰ぎつゝ御國の擴張の爲に此の　にて働く事早や一年近くとは相成申候日々の業に孜々汲々として立働く者の多きほど靈の糧を得んと志す人の少なく從て諸集會も何となく活氣乏しく思はれ候も鹿の溪流をしたふ如く天まつ清水により渇を癒しつきせぬ御惠の中に眞の幸福を味ひ知る人の日に／＼增し加はらん事を祈り常に主の愛に勵まされ只管出張所とも三ケ所の[illegible]に於て愛の敎を述べ傳へ其處に御國の建設せらるゝ樣いそしみ暮し居候、此處に我を遣し給へるは深き天父の御旨と存じ候へば何事にまれ感謝して專念働き居り候足らざる言葉もて述ぶる主の愛により深き慰藉を得て信仰の道に進む姉妹のある每に實に感謝の涙もて祈り居候、一人の悔ゆる者ある時に天に於ては大なる喜であるを信じ如何なる時も希望をもて愉快に日々を過し居候當地には信仰の友ともいふべき基督敎書雜誌の發賣なき故姉妹等には常に「女子青年會」を紹介致し居候此度も三名の讀者を得候へば御送附被下度御願申上候次第に多くの讀者を得る樣盡力いたすべく候、天父の御許邊に奉仕するを好まざる人々の中に立ち弱き心を痛む當地方の姉妹等の爲め彼等が一日も早くパウロの如き信仰に依りて立ち得る樣諸兄姉の切なる祈を御願ひ申上候。

## ○我儘は云はれず神に感謝致居候

山口　湯田きみの

御承知とは存じ候へども本月中旬より全國協同傳道にて當地方に宮川先生もお見えに相成る由先日當地を距る汽車にて四十分位の所なる長府の牧師駒田信夫様より承り申候、此方は元々捜眞女學校に傳道に參られし事ある由にて同校の方々より御存知にて卒業生の紹介にて私を御尋ね被下候又近頃下の關より守屋吉之助といふ駒田牧師の友人の方當地に來られ候由其中に講義所も設けらるゝ事を待ち居候その方にも一度御目に懸り度しと思ひ候へども紹介して頂く機會なく失禮致し居候來る日曜日にでも參る積りに御座候、只今弘前敎會の竹中アイ樣の依頼にて饑饉の爲めの寄附金を募集致し居り候生れて初ての經驗厚かましくもキリスト敎反對の人々より寄附をあふぐは苦しく候然し女敎員と生徒の同情にて五圓近くの金集りこの日曜日には一先づ竹中氏に寄附致す積りに御座候同じ姉妹が如何に苦しみ居るかを思ふと決して我儘は言はれずと神に感謝致し居り候。

## ○晝食後に『ひとりぼつち』の御話

廣島　阪本花代

一年の月日は夢の間に過ぎ候この過し一年間は一度もお醫者樣の御厄介にもならず日々の務めもなし得られしを感謝致し居り候この田舍に入りてより何となう心も落ち付き神樣に親しく接し得る心地致し候常に祈りキリストにならひて毎日を送り度しと思ひ居り候今より夏の修養會に參り度しと樂しみ居り候、いつも「女子青年界」によりて力づけられ他の先生方にも御目にかけ居り候昨年より晝食後に『ひとりぼつち』を話しはじめ生徒もいと面白く感じ居り候、かゝる田舍の子女の間にも女子青年會の名を知らせ度しと祈り居候當地は誠に宗敎（キリスト敎）の振はぬ處にて候、時々ミス、ガーヴインを訪問いたし候誠に親切なよろしき方にて女子學院出身の關口樣御一緒に居られ候まゝ色々御話もよく合ひかゝる友を得しを感謝致し居り候。

## 會友申込者（本部報告）

時任 ちか　大谷 まき　梅田 むら　三島 つな
安孫子八重　石崎まさえ

## ○雑誌「女子青年界」代金領收

金七拾錢宛　小林 ひで　中原 ます　齋藤 千代
三井 すて　松 田　水澤 ふく　鈴木 そう
井ノ本小夏　杉森 ウメ　西田 てる　ミセス、ボールス
楠瀬 安惠　高梨 ちせ
金五拾錢　菊地 ちづ　金參拾五錢　菅 野 文
金貳圓拾錢　廣岡 香芽　金壹圓四拾錢　廣岡 いく
金貳拾錢　石井 畠代　金貳圓拾錢　ミセス、ヘイル
金壹圓　山田 滋子　金參圓七拾壹錢　共立青年會

## ○會友會費領收

金壹圓宛　時任 ちか　大谷 まき　梅田 なら
三島 つな　安孫子八重　石崎まさえ　岩崎 智子
河井 道子　金貳圓　阪本 花代

正誤　前號會友杉田縫子は松田縫子の誤り。

## ○萬國基督教女子青年會員擔金領收（前報告後の分）

金五圓六拾八錢　廣島女學校青年會
小計
總計金

## 稟告

學校内の女子青年會員諸姉中には今三月を以て卒業さるゝ方も數多あるなるべし。斯る方々は地方に離散さるゝとも可成女子青年會本部に連屬され會友となりて御盡力あらん事を乞ふ。在校中熱心なる會員諸姉も學校を離れ青年會の無き地に轉任さるゝ場合は兎角本會と無關係の如き姿に成り易きものゆゑ、願くば學校を去らるゝとも猶本部の會友となり各地に此事業の開發せられん樣御盡力を希望す會則は本誌の後部に記載せり、就て御覽の上申込ありたし。

大正三年三月

東京市牛込區田町三丁目十二番地
日本基督教女子青年會本部

| 部數 | 定價（郵共） | 海外 | 廣告 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 一部 | 金七錢 | 金十一錢 | 一頁 | 金六圓 | 半段 | 金貳圓 |
| 一年分 | 金七拾錢 | 金壹圓廿四錢 | 半頁 | 金三圓五拾錢 | 一行 | 金貳拾錢 |

大正三年三月廿八日印刷納本
大正三年四月一日發行

發行所　京京市牛込區田町三丁目十二番地
日本基督教女子青年會

編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地
河井道子

印刷人　東京市芝區櫻田和泉町七番地
鈴木吉次郎

印刷所　東京市芝區櫻田和泉町七番地
三成舍

# 日本基督教女子青年會

## 目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を謀り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事

左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

## 會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常 年 金壹圓
維持 年 金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

## 事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方の巡廻視察をなさしめ本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舎の設備　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舎有将來他都市にも設立せん事を期す

宿泊所を紹介す　外國婦人の要求に應じ併て日本の貴柑を紹介す

夏季修養會　毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

## 日本基督教女子青年會中央委員

委員長　井深花子
副委員長　岡見恵子
記録書記　三谷民子
會計　井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子
「女子青年界」編輯主任　小此木松子

### 委員

津田梅子(東京)　エ、ビ、ウエスト(東京)
鈴木歌子(東京)　小此木松子(東京)
長谷川喜多子(東京)　サラ、エリス(東京)
山田千代子(横濱)　イ、クレメント(東京)
廣岡淺子(大阪)　エム、エフ、デントン(京都)
ケー、トリストラム(大阪)　エス、ソール(神戸)
佐伯小糸(京都)　上代淑子(岡山)
松田道子(京都)

### 幹事

總幹事(本部)　河井道子
同(同)　エ、シー、マグドナルド
書記(同)　アール・レーガン
總幹事(東京)　エム、エル、マシウ
幹事(同)　シー、アール、ワトネ
特志幹事(同)　エム、ペーチ
幹事(横濱)　久野ひさ子

## 本部位置

日本基督教女子青年會本部　東京市牛込區田町三ノ十二

## 支部及寄宿舎位置

| | |
|---|---|
| 東京基督教女子青年會 | 東京麹町三番町四一 |
| 廣島女學校青年會 | 廣島市上流川町 |
| 同志社女學校青年會 | 京都上京今出川通 |
| プール女學校青年會 | 大阪西區川口町一二 |
| ウヰルミナ女學校青年會 | 大阪東區玉造 |
| 札幌女子青年會 | 札幌北四條北星女學校内 |
| 宮城女學校青年會 | 仙臺市東三番町 |
| クリスチアン女學校青年會 | 宇都宮二條町壱 |
| フエリス女學校青年會 | 横濱山手町一七八 |
| 共立女學校青年會 | 横濱山手町二一二 |
| 女子英學塾青年會 | 東京麹町區五番町一六 |
| 女子學院青年會 | 東京麹町上二番町三三 |
| 青山女學院青年會 | 東京青山南町七ノ一 |
| 青山女子手藝學校青年會 | 東京青山南町七ノ一 |
| 女子傳道學校青年會 | 東京小石川指ケ谷町八四 |
| 神戸女學院青年會 | 神戸市山本通四丁目 |
| 金城女學校青年會 | 名古屋東區白壁町四丁目 |
| 盛岡女子青年會 | 盛岡内丸タピング方 |
| 徳島女子青年會 | 徳島富田浦仲町ミスリッソン方 |
| 横濱女子青年會 | 横濱市本町五一 |
| 第一寄宿舎 | 東京市牛込區納戸町四五 |
| 第二寄宿舎 | 東京小石川水道町(安藤坂) |
| 外國婦人宿泊所 | 東京市赤坂區檜町(乃木坂) |

# 新着洋書

## Library of Standard Biographies

**¥ .50—.08**

| | |
|---|---|
| Boswell, J. | Life of Johnson |
| Bourrienne, J. G. | Life of Sir Walter Scott |
| Maxwell, W. H. | Life of Wellington |
| Southeys, R. | Life of Nelson |
| ,, | Life of Wesley |

## Stories From History Series

**¥ .50—.06**

| | |
|---|---|
| Dalkeith, L. | Stories from French History |
| ,, | Stories from Roman History |
| Kelman, J. H. | Stories from the Crusades |
| Lemon, E. | Stories from Greek History |
| Skae, H. T. | Stories from English History |

## Hodder and Stoughton's Sevenpenny Novels

**¥ .35—.06**

| | |
|---|---|
| Appenheim, E. P. | The Black Watcher |
| Caine, H. | Capt'n Davy's Honeymoon |
| Couch, A. T. Q. | The Fort Amity |
| Crowford, F. M. | The Upper Birth |
| Crockett, R. | The Smugglers |
| Doyle, C. | Uncle Bernac |
| Hope, A. | A Change of Air |
| Merriman, H. S. | From One Generation to Another |
| ,, | Poison Island |
| Parker, Sir, G. | The Lane that had no Turning |
| Pemberton, M. | Mid the Thick Arrows |
| Shapcott, R. | The Autobiography of Mark Rutherford |
| Snaith, J. C. | Mr. Fitz |

## Cassell's Pocket Reference Library

**¥ .25—.06**

| | |
|---|---|
| Penham, W. T. | A Dictionary of Poetical Quotation |
| ,, | A Dictionary of Prose Quotation |
| Bovet, E. F. | French Conversation for English Travellers |
| Dawson, L. H. | When Was That? |
| Dobbs, A. E. | Abbreviations British and Foreign |
| Edmunds, E. W. | Cassell's Pocket English Dictionary |
| Luxmoore, M. | A Dictionary of Etiquette |
| Rayner, J. L. | Proverbs and Maxims |

東京銀座　**教文館**　振替東京 一一三五七

女子青年界第拾壹卷第四號
大正三年三月廿八日印刷納本　大正三年四月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可